

注3

大学番号：私107

[平成30年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

届出

東洋大学大学院 ライフデザイン学研究科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東洋大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 次長・長谷川 ハセガワ ナオミ 直美

電話番号 048-468-6317

（夜間） 048-468-6311

F A X 048-468-6320

e-mail mlags@toyo.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

ライフデザイン学研究科

＜生活支援学専攻（M）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

＜健康スポーツ学専攻（M）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	37
2. 授業科目の概要	41
3. 施設・設備の整備状況、経費	47
4. 既設大学等の状況	48
5. 教員組織の状況	55
6. 附帯事項等に対する履行状況等	64
7. その他全般的事項	65

＜ヒューマンライフ学専攻（D）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	69
2. 授業科目の概要	73
3. 施設・設備の整備状況、経費	77
4. 既設大学等の状況	78
5. 教員組織の状況	85
6. 附帯事項等に対する履行状況等	91
7. その他全般的事項	92

＜人間環境デザイン専攻（M）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	96
2. 授業科目の概要	100
3. 施設・設備の整備状況、経費	106
4. 既設大学等の状況	107
5. 教員組織の状況	114
6. 附帯事項等に対する履行状況等	125
7. その他全般的事項	126

＜人間環境デザイン専攻（D）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	130
2. 授業科目の概要	134
3. 施設・設備の整備状況、経費	138
4. 既設大学等の状況	139
5. 教員組織の状況	146
6. 附帯事項等に対する履行状況等	153
7. その他全般的事項	154

添付資料

- ① 建築等設置計画変更書
- ② 東洋大学高等教育推進センター規程
- ③ 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名

東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福 川 伸 次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安 齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため (元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月)		
研究科長	(オオサコ マサフミ) 大 迫 正 文 (平成30年4月)		
専 攻 長	(タカハシ ナオミ) 高 橋 直 美 (平成30年4月)	(ワタナベ ヒロミ) 渡 辺 裕 美 (平成31年4月)	高橋氏がライフデザイン学部 の専攻長に就任したため (元) 変更年月日：平成31年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を
()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学研究所 生活支援学専攻(修士課程) 修士(社会福祉学) 又は 修士(保育学)	社会学・社会福祉学関係 教育学・保育学関係	2年	10人	— 年次 — 人	20人	基礎となる学部等 ライフデザイン学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							10人 一人		10人 一人		0.70倍	一 倍	
							(ー) [ー]		(ー) [ー]				
志願者数							9 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	11 (ー) [2]	ー (ー) [ー]			
受験者数							9 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	11 (ー) [2]	ー (ー) [ー]			
合格者数							8 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	8 (ー) [1]	ー (ー) [ー]			
B 入学者数							7 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	7 (ー) [0]	ー (ー) [ー]			
入学定員超過率 B / A							0.70		0.70				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次							7 [—]	— [—]	7 [—]	— [—]	
2 年次									7 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次											
4 年次											
計	— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		7 [—] (—)		14 [—] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留學生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	7 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	14 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に關する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0.00} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<ライフデザイン学研究科生活支援学専攻 修士課程>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義科目（両コース共通）	ライフデザイン学基礎特論Ⅰ	1前	2			7	2				兼4
	ライフデザイン学基礎特論Ⅱ	1・2後		2		1					
	ライフデザイン学実践研究A	1・2前		2		6	2				兼2
	ライフデザイン学実践研究B	1・2後		2		6	2				兼2
	海外社会調査演習Ⅰ	1・2前・後		2							兼1
	海外社会調査演習Ⅱ	1・2前・後		2							兼1
	小計(6科目)	－	2	10	0	10	2	0	0	0	兼7
講義科目（高齢者・障害者支援学コース）	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	1・2後		2		1					兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅣA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅣB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅦA	1・2前		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅦB	1・2後		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅧA	1・2前		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅧB	1・2後		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅨA	1・2前		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅨB	1・2後		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅩA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠB	1・2後		2		1					
高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡA	1・2前		2		1						
高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡB	1・2後		2		1						
小計(22科目)	－	0	44	0	5	2	0	0	0	兼4	

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義科目 (両コース共通)	ライフデザイン学基礎特論Ⅰ	1前	2			7	2				兼4
	ライフデザイン学基礎特論Ⅱ	1・2後		2		1					
	ライフデザイン学実践研究A(未開講)	1・2前		2		7	2				兼1
	ライフデザイン学実践研究B	1・2後		2		7	2				兼1
	海外社会調査演習Ⅰ	1・2前・後		2			1				兼1
	海外社会調査演習Ⅱ	1・2前・後		2			1				兼1
	小計(6科目)	－	2	10	0	10	2	0	0	0	兼6
講義科目 (高齢者・障害者支援学コース)	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅣA(未開講)	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅣB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅧA	1・2前		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅧB	1・2後		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅨA	1・2前		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅨB	1・2後		2			1				
	高齢者・障害者支援学特論ⅩA(未開講)	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠA(未開講)	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡB	1・2後		2		1					
小計(22科目)	－	0	44	0	6	2					兼3

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義科目（子ども支援学コース）	子ども支援学特論 ⅠA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅠB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅡA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅡB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅢA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅢB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅣA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅣB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅤA	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 ⅤB	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 ⅥA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅥB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅦA	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 ⅦB	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 ⅧA	1・2前		2				1			
	子ども支援学特論 ⅧB	1・2後		2				1			
	子ども支援学特論 ⅨA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅨB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩⅠA	1・2前		2							兼1
	子ども支援学特論 ⅩⅠB	1・2後		2							兼1
	子ども支援学特論 ⅩⅡ	1・2前		2							兼1
	小計(23科目)	-	0	46	0	7	3	0	0	0	兼2
研究指導科目（高年齢者・障害者支援学コース）	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅠA	1前		2		5	2				兼2
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅠB	1後		2		5	2				兼2
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅡA	2前		2		5	2				兼2
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅡB	2後		2		5	2				兼2
	小計(4科目)	-	0	8	0	5	2	0	0	0	兼2
研究指導科目（子ども支援学コース）	子ども支援学研究指導ⅠA	1前		2		7	3				
	子ども支援学研究指導ⅠB	1後		2		7	3				
	子ども支援学研究指導ⅡA	2前		2		7	3				
	子ども支援学研究指導ⅡB	2後		2		7	3				
	小計(4科目)	-	0	8	0	7	3	0	0	0	兼0
合計(59科目)		-	2	116	0	12	5	0	0	0	兼11

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義科目（子ども支援学コース）	子ども支援学特論 ⅠA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅠB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅡA(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅡB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅢA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅢB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅣA(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅣB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅤA(未開講)	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 ⅤB	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 ⅥA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅥB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅦA	1・2前		2				1			
	子ども支援学特論 ⅦB	1・2後		2				1			
	子ども支援学特論 ⅧA	1・2前		2				1			
	子ども支援学特論 ⅧB	1・2後		2				1			
	子ども支援学特論 ⅨA(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅨB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩA	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩB	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 ⅩⅠA(未開講)	1・2前		2							兼1
	子ども支援学特論 ⅩⅠB	1・2後		2							兼1
	子ども支援学特論 ⅩⅡ(未開講)	1・2前		2							兼1
	小計(23科目)	-	0	46	0	7	2	0	0	0	兼2
研究指導科目（高年齢者・障害者支援学コース）	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅠA	1前		2		6	2				兼1
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅠB	1後		2		6	2				兼1
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅡA	2前		2		6	2				兼1
	高年齢者・障害者支援学研究指導ⅡB	2後		2		6	2				兼1
	小計(4科目)	-	0	8	0	6	2	0	0	0	兼1
研究指導科目（子ども支援学コース）	子ども支援学研究指導ⅠA	1前		2		7	2				
	子ども支援学研究指導ⅠB	1後		2		7	2				
	子ども支援学研究指導ⅡA	2前		2		7	2				
	子ども支援学研究指導ⅡB	2後		2		7	2				
	小計(4科目)	-	0	8	0	7	2				兼0
合計(59科目)		-	2	116	0	13	4	0	0	0	兼10

卒業要件及び履修方法

- (1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。
- (3) 「ライフデザイン学基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

卒業要件及び履修方法

- (1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。
- (3) 「ライフデザイン学基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義科目（両コース共通）	ライフデザイン学基礎特論Ⅰ	1前	2			7	2				兼4
	ライフデザイン学基礎特論Ⅱ（未開講）	1・2後		2		1					
	ライフデザイン学実践研究A（未開講）	1・2前		2		8	2				
	ライフデザイン学実践研究B（未開講）	1・2後		2		8	2				
	海外社会調査演習Ⅰ（未開講）	1・2前・後		2			1				兼1
	海外社会調査演習Ⅱ（未開講）	1・2前・後		2			1				兼1
	小計(6科目)	—	2	10	0	12	2	0	0	0	兼4
講義科目（高齢者・障害者支援学コース）	高齢者・障害者支援学特論ⅠA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅠB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅡA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅡB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅢA（未開講）	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅢB（未開講）	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅣA（未開講）	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅣB（未開講）	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅤA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅤB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論Ⅵ（未開講）	1・2後		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論Ⅶ	1・2前		2							兼1
	高齢者・障害者支援学特論ⅦA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅦB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅨA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅨB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅠB	1・2後		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡA	1・2前		2		1					
	高齢者・障害者支援学特論ⅩⅡB	1・2後		2		1					
	小計(22科目)	—	0	44	0	7	2	0	0	0	兼2

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講 義 科 目 (高 齢 者 ・ 障 害 者 支 援 学 コ ー ス)	子ども支援学特論 I A(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 I B(未開講)	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 II A(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 II B(未開講)	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 III A(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 III B(未開講)	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 IV A	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 IV B	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 V A	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 V B	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 VIA(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 VIB(未開講)	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 VII A(未開講)	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 VII B(未開講)	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 VIII A(未開講)	1・2前		2			1				
	子ども支援学特論 VIII B(未開講)	1・2後		2			1				
	子ども支援学特論 IX A(未開講)	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 IX B(未開講)	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 X A	1・2前		2		1					
	子ども支援学特論 X B	1・2後		2		1					
	子ども支援学特論 X I A	1・2前		2							兼1
	子ども支援学特論 X I B	1・2後		2							兼1
	子ども支援学特論 X II(未開講)	1・2前		2							兼1
	小計(23科目)	-	0	46	0	7	3	0	0	0	兼2
研 究 指 導 科 目 (高 齢 者 ・ 障 害 者 支 援 学 コ ー ス)	高齢者・障害者支 援学研究指導 I A	1前		2		7	2				
	高齢者・障害者支 援学研究指導 I B	1後		2		7	2				
	高齢者・障害者支 援学研究指導 II A	2前		2							
	高齢者・障害者支 援学研究指導 II B	2後		2							
	小計(4科目)	-	0	8	0	7	2	0	0	0	兼0
研 究 指 導 科 目 (子 ど も 支 援 学 コ ー ス)	子ども支援学研究 指導 I A	1前		2		7	3				
	子ども支援学研究 指導 I B	1後		2		7	3				
	子ども支援学研究 指導 II A	2前		2							
	子ども支援学研究 指導 II B	2後		2							
	小計(4科目)		0	8	0	7	3	0	0	0	兼0
合計(59科目)		-	2	116	0	14	5	0	0	0	兼8

卒業要件及び履修方法

- (1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。
- (3) 「ライフデザイン学基礎特論Ⅰ」を履修・単位修得すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 「ライフデザイン学実践研究A・B」について、平成30年度末定年退職予定かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者(教授職)の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授2・兼2」から「教授8・准教授2」に変更。
- ・ 「海外社会調査演習Ⅰ・Ⅱ」について、教育内容充実のため、専任教員等の配置を「兼1」から「准教授1・兼1」に変更。
- ・ 「高齢者・障害者支援学特論ⅢA・ⅢB」について、平成30年度末定年退職予定かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者(教授職)の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・ 「高齢者・障害者支援学特論ⅤA・ⅤB」について、専任教員等の配置が「兼1」から「教授1」に変更となっているが設置計画どおりである。
- ・ 「高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA・ⅠB」について、平成30年度末定年退職予定かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者(教授職)の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「教授5・准教授2・兼2」から「教授7・准教授2」に変更。

【令和元年度】

- ・ 「ライフデザイン学実践研究A・B」について、平成30年度末定年退職予定かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者(教授職)の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授2・兼2」から「教授7・准教授2・兼1」に変更。
- ・ 「子ども支援学特論ⅤA・ⅤB」について、平成31年4月1日付担当教員昇格のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 「高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」について、平成30年度末定年退職予定かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者(教授職)の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「教授5・准教授2・兼2」から「教授6・准教授2・兼1」に変更。
- ・ 「子ども支援学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」について、担当教員1名の平成31年4月1日付昇格および別の担当教員の令和元年度長期海外研究のため、専任教員等の配置を「教授7・准教授3」から「教授7・准教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	58 科目	0 科目	59 科目	1 科目 [増減なし]	58 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	59 科目 [増減なし]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{59} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～2041/3/31 H11.4.18～H41.4.17 借用期間の修正 (30)			
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡				
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡				
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	赤羽台キャンパス土地登記手続等による修正 (30)			
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得による変更 (元)			
(2) 校 舎	専 用	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡	0㎡	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)			
(3) 教 室 等	講 義 室	330室 327室 328室	153室 157室	400室 403室 401室	35室 33室 12人 14人 (補助職員 27人)	5室 (補助職員 0人)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		平成31年3月専任教授 1 名定年退職のため (元)			
	ライフデザイン学研究科生活支援学専攻			18 19 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	ライフデザイン学研究科生活支援学専攻	1,581,832 (349,515) 1,582,705 (352,312) 1,619,535 (353,557) (1,561,606 (347,373)) (1,551,493 (350,924)) (1,566,737 (350,403))	16,875 (5,492) 17,378 (5,500) 17,516 (5,526) (16,875 (5,492)) (17,378 (5,500)) (17,516 (5,526))	19,599 (19,455) 18,686 (18,586) 26,156 (26,519) (19,599 (19,455)) (18,686 (18,586)) (26,156 (26,519))	23,167 22,872 24,441 (22,711) (22,482) (23,932)	— — (—) (—) (—) (—)	— — (—) (—) (—) (—)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更 (30)	
	計	1,581,832 (349,515) 1,582,705 (352,312) 1,619,535 (353,557) (1,561,606 (347,373)) (1,551,493 (350,924)) (1,566,737 (350,403))	16,875 (5,492) 17,378 (5,500) 17,516 (5,526) (16,875 (5,492)) (17,378 (5,500)) (17,516 (5,526))	19,599 (19,455) 18,686 (18,586) 26,156 (26,519) (19,599 (19,455)) (18,686 (18,586)) (26,156 (26,519))	23,167 22,872 24,441 (22,711) (22,482) (23,932)	— — (—) (—) (—) (—)	— — (—) (—) (—) (—)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更 (元)	
(6) 図 書 館	面 積		開 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	17,498.63㎡ 17,211.03㎡		2,758 2,763 2,746		2,081,075 2,122,700 2,121,775		面積：改修工事等による変更 (30) / 閲覧 座席数・収納可能冊数：白山キャンパス及び 川越キャンパスの書架及び閲覧席の増減による 変更 (30) 白山キャンパス及び川越キャンパスの書架並びに 板倉キャンパス閲覧席の増減による変更 (元)		
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	21,067.33㎡ 24,097.14㎡ 24,240.06㎡		野 球 場 1 面、 サ ッ カ ー 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 13 面 等				新川越体育館の計画時面積と竣工面積の 差等による変更 (30) 運動部用倉庫取壊しによる変更 (元)		
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員 1 人当り研究費等：研究科単位では算出不能なため、学部との合計
	共同研究費等	教員 1 人当り研究費等	532千円	532千円	図書購入費	685千円	641千円 815千円	616千円 959千円	共同研究費等：大学全体
		共同研究費等	80,000千円	80,000千円	設備購入費	3,549千円	983千円 4,223千円	630千円 4,069千円	図書購入費：図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む。）を含む。
		学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	設備購入費：申請研究科全体
		810千円	540千円	—	—	—	—	—	計画見直しに伴う変更 (30) 計画見直しに伴う変更 (元)
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（５）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コ ミュニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会 学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士 (社会心理 学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修 士(社会福 祉学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修 士(マーケ ティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止

理工学研究科									
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域 学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光 学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域 学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光 学)	—	—	平成17 年度	同上
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャル ワーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士 (保育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康ス ポーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナイン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオナイン融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	

経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士（経営学）又は博士（マーケティング）	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士（経営学）	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士（経営学）または博士（会計・ファイナンス）	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更（△2）
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士（マーケティング）	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.33	—	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.66	—	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士（国際地域学）	0.60	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士（国際観光学）	0.50	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士（国際地域学）	—	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士（国際観光学）	—	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士（生命科学）	0.50	—	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（ソーシャルワーク）	0.90	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（健康スポーツ学）	0.80	—	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士（人間環境デザイン学）	0.00	—	平成30年度	同上	

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナサイエンス融合)	0.50	—	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体(大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止 平成25年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	

法学部 第1部										
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.07	—	昭和31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.08	—	昭和40 年度	同上	
社会学部 第1部										
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上	
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	—	平成12 年度	同上	
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上	
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4 年度	同上	
理工学部										
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21 年度	同上	
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36 年度	同上	
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36 年度	同上	
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37 年度	同上	
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37 年度	同上	
国際地域学部										
国際地域学科						—		平成9 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
国際学部										
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	300	学士(グローバル・ イノベーション学)	0.99	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学科						1.02		平成29 年度	同上	
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29 年度	同上	
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29 年度	同上	
国際観光学部										
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
生命科学部										
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号	
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21 年度	同上	
ライフデザイン学部										
生活支援学科						1.05		平成17 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21 年度	同上	
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21 年度	同上	
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17 年度	同上	
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18 年度	同上	
総合情報学部										
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21 年度	埼玉県川越市鯨井2100	

食環境科学部									
食環境科学科									
フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25年度	同上
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25年度	同上
情報連携学部									
情報連携学科	4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
文学部 第2部									
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	1.12	—	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31年度	同上
日本文学文化学科	4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27年度	同上
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39年度	同上
経済学部 第2部									
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
経営学部 第2部									
経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
法学部 第2部									
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会学部 第2部									
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会福祉学科	4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13年度	同上
大学全体（学部）	—	7306	—	28060	—	—	—	—	—
通信教育部									
文学部									
日本文学文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39年度	平成30年度より学生募集停止
法学部									
法律学科	4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41年度	平成30年度より学生募集停止
大学全体（通信教育部）	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜ライフデザイン学研究科生活支援学専攻 修士課程＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専 攻 長)	高橋 直美 (55) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※ ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅡA 子ども支援学特論ⅡB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	是枝 喜代治 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学） ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学基礎特論Ⅱ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授	稲沢 公一 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学） ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅠA 高齢者・障害者支援学特論ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専 攻 長)	高橋 直美 (56) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※ ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅡA 子ども支援学特論ⅡB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	教授	是枝 喜代治 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学） ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学基礎特論Ⅱ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授	稲沢 公一 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学） ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅠA 高齢者・障害者支援学特論ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 （専 攻 長）	高橋 直美 (57) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※ ライフデザイン学基礎特論Ⅰ ※ 子ども支援学特論ⅡA 子ども支援学特論ⅡB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	是枝 喜代治 (59) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学） ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学基礎特論Ⅱ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授	稲沢 公一 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学） ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅠA 高齢者・障害者支援学特論ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	本名 靖 (63) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論VA 高齢者・障害者支援学特論VB 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB 高齢者・障害者支援学研究指導 IIA 高齢者・障害者支援学研究指導 IIB
専	教授	吉浦 輪 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論XA 高齢者・障害者支援学特論XB 高齢者・障害者支援学特論XI A 高齢者・障害者支援学特論XI B 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB 高齢者・障害者支援学研究指導 IIA 高齢者・障害者支援学研究指導 IIB
専	教授	白石 弘巳 (63) ＜平成30年4月＞ 医学博士
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論III A 高齢者・障害者支援学特論III B 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB 高齢者・障害者支援学研究指導 IIA 高齢者・障害者支援学研究指導 IIB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	本名 靖 (64) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論VA A 高齢者・障害者支援学特論VB B 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB
専	教授	吉浦 輪 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論XA A 高齢者・障害者支援学特論XB B 高齢者・障害者支援学特論XI A 高齢者・障害者支援学特論XI B 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB
専	教授	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	
専	教授	吉浦 輪 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論XA A 高齢者・障害者支援学特論XB B 高齢者・障害者支援学特論XI A 高齢者・障害者支援学特論XI B 高齢者・障害者支援学研究指導 IA 高齢者・障害者支援学研究指導 IB 高齢者・障害者支援学研究指導 IIA 高齢者・障害者支援学研究指導 IIB
専	教授	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡辺（門脇）裕美 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅣA 高齢者・障害者支援学特論ⅣB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授	中原 美恵 (62) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	内田 千春 (53) ＜平成30年4月＞ Ph.D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅥA 子ども支援学特論ⅥB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		吉田 光爾 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（保健学）
専	教授	ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅢA 高齢者・障害者支援学特論ⅢB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB
専	教授	渡辺（門脇）裕美 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅣA 高齢者・障害者支援学特論ⅣB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB
専	教授	中原 美恵 (63) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	内田 千春 (54) ＜平成30年4月＞ Ph.D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅥA 子ども支援学特論ⅥB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
		吉田 光爾 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（保健学）
専	教授	ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅢA 高齢者・障害者支援学特論ⅢB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授（専攻長）	渡辺（門脇）裕美 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅣA 高齢者・障害者支援学特論ⅣB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	教授	中原 美恵 (64) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	内田 千春 (55) ＜平成30年4月＞ Ph.D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅥA 子ども支援学特論ⅥB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉田 記代子 (61) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	嶋崎 博嗣 (49) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 子ども支援学特論ⅢA 子ども支援学特論ⅢB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	鈴木 崇之 (47) ＜平成30年4月＞ 修士（社会学）※
		子ども支援学特論ⅣA 子ども支援学特論ⅣB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	南野 奈津子 (43) ＜平成30年4月＞ Master of Social Work（米国）
		子ども支援学特論ⅩA 子ども支援学特論ⅩB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉田 記代子 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	教授	嶋崎 博嗣 (50) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 子ども支援学特論ⅢA 子ども支援学特論ⅢB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	教授	鈴木 崇之 (48) ＜平成30年4月＞ 修士（社会学）※
		子ども支援学特論ⅣA 子ども支援学特論ⅣB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	教授	南野 奈津子 (44) ＜平成30年4月＞ Master of Social Work（米国）
		子ども支援学特論ⅩA 子ども支援学特論ⅩB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	杉田 記代子 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 子ども支援学特論ⅠA 子ども支援学特論ⅠB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	嶋崎 博嗣 (51) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 子ども支援学特論ⅢA 子ども支援学特論ⅢB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	鈴木 崇之 (49) ＜平成30年4月＞ 修士（社会学）※
		子ども支援学特論ⅣA 子ども支援学特論ⅣB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	教授	南野 奈津子 (45) ＜平成30年4月＞ Master of Social Work（米国）
		子ども支援学特論ⅣA 子ども支援学特論ⅣB 子ども支援学特論ⅩA 子ども支援学特論ⅩB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 美香 (54) ＜平成30年4月＞ 文学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	准教授	八木 裕子 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅦA 高齢者・障害者支援学特論ⅦB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	准教授	的場（木内）智子 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅨA 高齢者・障害者支援学特論ⅨB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 美香 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB
専	准教授	八木 裕子 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ 高齢者・障害者支援学特論ⅦA 高齢者・障害者支援学特論ⅦB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB
専	准教授	的場（木内）智子 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅨA 高齢者・障害者支援学特論ⅨB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 美香 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅡA 高齢者・障害者支援学特論ⅡB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	准教授	八木 裕子 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ 高齢者・障害者支援学特論ⅦA 高齢者・障害者支援学特論ⅦB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB
専	准教授	的場（木内）智子 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅨA 高齢者・障害者支援学特論ⅨB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	高山 静子 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		子ども支援学特論ⅤA 子ども支援学特論ⅤB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	准教授	高橋 健介 (48) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		子ども支援学特論ⅦA 子ども支援学特論ⅦB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	准教授	内田 塔子 (43) ＜平成30年4月＞ 修士（文学）※
		子ども支援学特論ⅧA 子ども支援学特論ⅧB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
兼任	教授	鈴木 哲郎 (66) ＜平成30年4月＞ 体育学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	古川 覚 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	神野 宏司 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	齊藤 恭平 (56) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	高山 静子 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		子ども支援学特論ⅤA 子ども支援学特論ⅤB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	准教授	高橋 健介 (59) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		子ども支援学特論ⅦA 子ども支援学特論ⅦB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
専	准教授	内田 塔子 (44) ＜平成30年4月＞ 修士（文学）※
		子ども支援学特論ⅧA 子ども支援学特論ⅧB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB
兼任	教授	鈴木 哲郎 (67) ＜平成30年4月＞ 体育学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	古川 覚 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	神野 宏司 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	齊藤 恭平 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高山 静子 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		子ども支援学特論ⅤA 子ども支援学特論ⅤB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	准教授	高橋 健介 (50) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		子ども支援学特論ⅦA 子ども支援学特論ⅦB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
専	准教授	内田 塔子 (45) ＜平成30年4月＞ 修士（文学）※
		子ども支援学特論ⅧA 子ども支援学特論ⅧB 子ども支援学研究指導ⅠA 子ども支援学研究指導ⅠB 子ども支援学研究指導ⅡA 子ども支援学研究指導ⅡB
兼任	教授	古川 覚 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	齊藤 恭平 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅間 正通 (60) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	高山 直樹 (56) ＜平成30年4月＞ 修士（社会福祉学）
		高齢者・障害者支援学特論Ⅵ
兼任	准教授	木内 明 (49) ＜平成30年4月＞ 教育学修士（韓国）※
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ
兼任	准教授	平野 智之 (49) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	准教授	内山 有子 (45) ＜平成31年4月＞ 修士（保健学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	本名 靖 (63) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅤA 高齢者・障害者支援学特論ⅤB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅間 正通 (61) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	高山 直樹 (57) ＜平成30年4月＞ 修士（社会福祉学）
		高齢者・障害者支援学特論Ⅵ
兼任	准教授	木内 明 (50) ＜平成30年4月＞ 教育学修士（韓国）※
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※ 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ
兼任	准教授	平野 智之 (50) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	准教授	内山 有子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士（保健学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	本名 靖 (64) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅤA 高齢者・障害者支援学特論ⅤB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅間 正通 (62) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	高山 直樹 (58) ＜平成30年4月＞ 修士（社会福祉学）
		高齢者・障害者支援学特論Ⅵ
兼任	准教授	木内 明 (51) ＜平成30年4月＞ 教育学修士（韓国）※
		海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ
兼任	准教授	
兼任	准教授	内山 有子 (47) ＜平成31年4月＞ 修士（保健学）
		ライフデザイン学基礎特論Ⅰ※
兼任	教授	本名 靖 (65) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学実践研究A ライフデザイン学実践研究B 高齢者・障害者支援学特論ⅤA 高齢者・障害者支援学特論ⅤB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA 高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	白石 弘巳 (63) ＜平成31年4月＞ 医学博士						
		ライフデザイン学実践研究 A ライフデザイン学実践研究 B 高齢者・障害者支援学特論Ⅲ A 高齢者・障害者支援学特論Ⅲ B 高齢者・障害者支援学研究指導 Ⅰ A 高齢者・障害者支援学研究指導 Ⅰ B 高齢者・障害者支援学研究指導 Ⅱ A 高齢者・障害者支援学研究指導 Ⅱ B						
兼任	講師	井上 治代 (66) ＜平成30年4月＞ 博士（社会学）	兼任	講師	井上 治代 (67) ＜平成30年4月＞ 博士（社会学）	兼任	講師	井上 治代 (68) ＜平成30年4月＞ 博士（社会学）
		高齢者・障害者支援学特論Ⅶ			高齢者・障害者支援学特論Ⅶ			高齢者・障害者支援学特論Ⅶ
兼任	講師	小川 晶 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）	兼任	講師	小川 晶 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）	兼任	講師	小川 晶 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		子ども支援学特論ⅩⅠ A 子ども支援学特論ⅩⅠ B			子ども支援学特論ⅩⅠ A 子ども支援学特論ⅩⅠ B			子ども支援学特論ⅩⅠ A 子ども支援学特論ⅩⅠ B
兼任	講師	小野 道子 (43) ＜平成30年4月＞ Master of Advanced Studies in Child Rights（スイス）	兼任	講師	小野 道子 (44) ＜平成30年4月＞ Master of Advanced Studies in Child Rights（スイス）	兼任	講師	小野 道子 (45) ＜平成30年4月＞ Master of Advanced Studies in Child Rights（スイス）
		子ども支援学特論ⅩⅡ			子ども支援学特論ⅩⅡ			子ども支援学特論ⅩⅡ

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・白石弘巳教授の平成30年3月退職に伴い、吉田光爾教授が平成30年4月就任。このことにより、平成31年4月白石弘巳兼任教授の就任もなし。
- ・山本美香教授が平成30年3月付で「博士（学術）」取得。

【令和元年度】

- ・鈴木崇之教授が令和元年度長期海外研究のため、担当科目を既存専任教員が代行。
- ・高山静子が平成31年4月付で准教授から教授へ昇格。
- ・鈴木哲郎教授、神野宏司教授、および平野智之准教授の兼任教員解任は、設置計画どおりである。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
3	2	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
12	5	0	0	17	14	4	0	0	18
(14)	(5)	(0)	(0)	(19)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
17	0	0			18	0	0		
(19)	(0)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
14	4	0	0	18	14	4	0	0	18
[2]	[Δ1]	[0]	[0]	[1]	[2]	[Δ1]	[0]	[0]	[1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
18	0	0			18	0	0		
[1]	[0]	[0]			[1]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{17} = \boxed{105.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	白石 弘巳	H30.4	選択	ライフデザイン学実証研究A	①	H30.4 一身上の都合により平成30年3月末日付退職のため、就任辞退（30）						
				選択	ライフデザイン学実証研究B	①							
				選択	高齢者・障害者支援学特論ⅢA	①							
				選択	高齢者・障害者支援学特論ⅢB	①							
				選択	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠA	①							
				選択	高齢者・障害者支援学研究指導ⅠB	①							
				選択	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡA	①							
				選択	高齢者・障害者支援学研究指導ⅡB	①							
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	8	科目	選択	8	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし									
合計（F）						後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	8	科目	選択	8	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{17} = 5.88 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	本名 靖	選択	ライフデザイン学実践研究 A	②	平成31年3月末日付で65歳で定年退職（元）			
			選択	ライフデザイン学実践研究 B	②				
			選択	高齢者・障害者支援学特論 V A	②				
			選択	高齢者・障害者支援学特論 V B	②				
			選択	高齢者・障害者支援学研究指導 I A	②				
			選択	高齢者・障害者支援学研究指導 I B	②				
			選択	高齢者・障害者支援学研究指導 II A	②				
			選択	高齢者・障害者支援学研究指導 II B	②				
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	8 科目	選択	0 科目	選択	8 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	8 科目	計	0 科目	計	8 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【(3)-①(白石)】後任として、退職教員のすべての担当科目を代替可能な専任教員(教授職)を採用したため、本専攻の教育研究の遂行には支障がないと判断している。学生への周知については、4月の入学に先立って、後任の専任教員が作成したシラバスを3月から公開していたほか、就学手続と同日に行った専攻ガイダンス内にて、学生との顔合わせを実施した。 【(3)-⑤(本名)】設置計画どおり、退職教員をH31.4付で兼任教授として採用し、すべての担当科目を引き続き担当しているため、本専攻の教育研究の遂行には支障がないと判断している。学生への周知については、シラバスを平成31年3月から公開していたほか、新入生には就学手続と同日に行った専攻ガイダンス内で説明した。また、在校生へは、教員の退職に先立って、専攻所属教員から直接学生へ周知した。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年3月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<ライフデザイン学研究科生活支援学専攻 修士課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・本研究科への入学試験は8月と2月に実施する。	・入学者増のため、令和元年度実施入学試験より8月、11月、2月の3回実施する。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチング アシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

● 研究倫理について学生を指導する上での留意点（ライフデザイン学研究科）

・講演会形式（外部講師招聘）

平成31年3月14日 参加者：32名

○=東洋大学全学実施・●=各学部/研究科での実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめた「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進度」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。(URL: <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>)

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上を目指している。

その他、ライフデザイン学研究科独自の取組みとして平成30年度に院生アンケートを実施し、集計結果を研究科委員会で共有した。集計結果に基づき、教育研究体制の改善策を各専攻で検討の上、集計結果および改善策等を学生へ公開する予定である。また、令和元年度以降も院生アンケートを実施する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名 東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福 川 伸 次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安 齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため (元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月)		
研究科長	(オオサコ マサフミ) 大 迫 正 文 (平成30年4月)		
専 攻 長	(フルカワ サトシ) 古 川 覚 (平成30年4月)	(スズキ テツロウ) 鈴 木 哲 郎 (平成31年4月)	古川氏がライフデザイン学部の学科長に就任したため (元) 変更年月日：平成31年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学研究科 健康スポーツ専攻（修士課程） 修士（健康スポーツ学）	体育関係	2 年	10 人	— 年次 — 人	20 人	基礎となる学部等 ライフデザイン 学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							10人	一人	10人	一人	0.20倍	一 倍	
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
志願者数							5	ー	2	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[2]	[ー]	[ー]	[ー]			
受験者数							5	ー	2	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[2]	[ー]	[ー]	[ー]			
合格者数							2	ー	2	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[1]	[ー]	[ー]	[ー]			
B 入学者数							2	ー	2	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[1]	[ー]	[ー]	[ー]			
入学定員超過率 B / A							0.20		0.20				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次							2 [1]	— [—]	2 [—]	— [—]	
2 年次									2 [1] (—)	— [—] (—)	
3 年次											
4 年次											
計	— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		2 [1] (—)		4 [1] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留學生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	2 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	4 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0.00} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻 修士課程>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通科目	ライフデザイン学 基礎特論	1前	2			3	1				兼9
	海外社会調査演 習Ⅰ	1・2前・後		2			1				
	海外社会調査演 習Ⅱ	1・2前・後		2			1				
	小計(3科目)	－	2	4	0	3	2	0	0	0	兼9
講義科目	健康スポーツ学特 論ⅠA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅠB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅡA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅡB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅢA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅢB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅣA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅣB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅤA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅤB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅥA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅥB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅦA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅦB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅧA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅧB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅨA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅨB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅠA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅠB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅡA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅩⅡB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅩⅢA	1・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅢB	1・2後		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅣA	1・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅣB	1・2後		2							兼1
小計(28科目)	－	0	56	0	6	6	0	0	0	兼1	

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	ライフデザイン学 基礎特論	1前	2			3	1				兼9
	海外社会調査演 習Ⅰ	1・2前・後		2			1				兼1
	海外社会調査演 習Ⅱ	1・2前・後		2			1				兼1
	小計(3科目)	－	2	4	0	3	2	0	0	0	兼9
講義科目	健康スポーツ学特 論ⅠA(未開講)	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅠB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅡA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅡB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅢA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅢB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅣA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅣB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅤA(未開講)	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅤB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅥA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅥB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅦA	1・2前		2							
	健康スポーツ学特 論ⅦB	1・2後		2							
	健康スポーツ学特 論ⅧA	1・2前		2							
	健康スポーツ学特 論ⅧB	1・2後		2							
	健康スポーツ学特 論ⅨA(未開講)	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅨB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩA(未開講)	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅠA(未開講)	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅠB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学特 論ⅩⅡA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅩⅡB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学特 論ⅩⅢA	1・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅢB	1・2後		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅣA	1・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特 論ⅩⅣB	1・2後		2							兼1
小計(28科目)	－	0	56	0	7	3	0	0	0	兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
演習科目	健康スポーツ学演習ⅠA	1・2前		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅠB	1・2後		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅡA	1・2前		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅡB	1・2後		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅢA	1・2前		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅢB	1・2後		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅣA	1・2前		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅣB	1・2後		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅤA	1・2前		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅤB	1・2後		2		1						
	健康スポーツ学演習ⅥA	1・2前		2								兼1
	健康スポーツ学演習ⅥB	1・2後		2								兼1
	健康スポーツ学演習ⅦA	1・2前		2			1					
	健康スポーツ学演習ⅦB	1・2後		2			1					
	健康スポーツ学演習ⅧA	1・2前		2			1					
	健康スポーツ学演習ⅧB	1・2後		2			1					
	健康スポーツ学総合演習ⅠA	1・2前		2		6	6					
	健康スポーツ学総合演習ⅠB	1・2後		2		2	2					
	健康スポーツ学総合演習ⅡA	1・2前		2		6	6					
	健康スポーツ学総合演習ⅡB	1・2後		2		5	1					
	国際健康スポーツ学研究ⅠA	1・2前		2			1					
	国際健康スポーツ学研究ⅠB	1・2後		2			1					
	国際健康スポーツ学研究Ⅱ	1・2後		2			2					
	国際健康スポーツ学研究ⅢA	1・2前		2			1					
	国際健康スポーツ学研究ⅢB	1・2後		2			1					
小計(25科目)	－	0	50	0	6	6	0	0	0	0	兼1	
研究指導科目	健康スポーツ学研究指導ⅠA	1前		2		6	5					
	健康スポーツ学研究指導ⅠB	1後		2		6	5					
	健康スポーツ学研究指導ⅡA	2前		2		6	5					
	健康スポーツ学研究指導ⅡB	2後		2		6	5					
	小計(4科目)	－	0	8	0	6	5	0	0	0	0	兼0
合計(60科目)		－	2	118	0	6	6	0	0	0	0	兼11
卒業要件及び履修方法												
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「ライフデザイン学基礎特論」を履修・単位修得すること。												

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
演習科目	健康スポーツ学演習ⅠA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅠB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅡA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅡB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅢA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅢB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅣA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅣB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅤA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅤB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅥA	1・2前		2								兼1
	健康スポーツ学演習ⅥB	1・2後		2								兼1
	健康スポーツ学演習ⅦA	1・2前		2								
	健康スポーツ学演習ⅦB	1・2後		2								
	健康スポーツ学演習ⅧA	1・2前		2				1				
	健康スポーツ学演習ⅧB	1・2後		2				1				
	健康スポーツ学総合演習ⅠA(未開講)	1・2前		2			7	5				
	健康スポーツ学総合演習ⅠB	1・2後		2			2	2				
	健康スポーツ学総合演習ⅡA(未開講)	1・2前		2			7	5				
	健康スポーツ学総合演習ⅡB	1・2後		2			6					
	国際健康スポーツ学研究ⅠA	1・2前		2								
	国際健康スポーツ学研究ⅠB	1・2後		2								
	国際健康スポーツ学研究Ⅱ	1・2後		2			1	1				
	国際健康スポーツ学研究ⅢA	1・2前		2			1					
	国際健康スポーツ学研究ⅢB	1・2後		2			1					
小計(25科目)	－	0	50	0		7	5	0	0	0	兼1	
研究指導科目	健康スポーツ学研究指導ⅠA	1前		2		7	4					
	健康スポーツ学研究指導ⅠB	1後		2		7	4					
	健康スポーツ学研究指導ⅡA	2前		2		7	4					
	健康スポーツ学研究指導ⅡB	2後		2		7	4					
	小計(4科目)	－	0	8	0		7	4	0	0	0	兼0
合計(60科目)		－	2	118	0	7	5	0	0	0	兼11	
卒業要件及び履修方法												
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「ライフデザイン学基礎特論」を履修・単位修得すること。												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	ライフデザイン学基礎特論	I前	2			2	2				兼9
	海外社会調査演習Ⅰ(未開講)	I・2前・後		2			1				兼1
	海外社会調査演習Ⅱ(未開講)	I・2前・後		2			1				兼1
	小計(3科目)	—	2	4	0	2	2	0	0	0	兼9
講義科目	健康スポーツ学特論ⅠA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅠB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅡA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅡB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅢA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅢB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅣA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅣB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅤA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅤB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅥA	I・2前		2							
	健康スポーツ学特論ⅥB	I・2後		2							
	健康スポーツ学特論ⅦA(未開講)	I・2前		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅦB(未開講)	I・2後		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅧA	I・2前		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅧB(未開講)	I・2後		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅨA(未開講)	I・2前		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅨB(未開講)	I・2後		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅩA(未開講)	I・2前		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅩB(未開講)	I・2後		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅩⅠA	I・2前		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅩⅠB(未開講)	I・2後		2			1				
	健康スポーツ学特論ⅩⅡA(未開講)	I・2前		2		1					
	健康スポーツ学特論ⅩⅡB(未開講)	I・2後		2		1					
	健康スポーツ学特論ⅩⅢA	I・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特論ⅩⅢB	I・2後		2							兼1
	健康スポーツ学特論ⅩⅣA	I・2前		2							兼1
	健康スポーツ学特論ⅩⅣB	I・2後		2							兼1
小計(28科目)	—	0	56	0	1	5	0	0	0	兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
演 習 科 目	健康スポーツ学演習ⅠA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅠB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅡA(未開講)	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅡB(未開講)	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅢA(未開講)	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅢB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅣA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅣB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅤA	1・2前		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅤB	1・2後		2		1					
	健康スポーツ学演習ⅥA(未開講)	1・2前		2							兼1
	健康スポーツ学演習ⅥB(未開講)	1・2後		2							兼1
	健康スポーツ学演習ⅦA	1・2前		2			1				
	健康スポーツ学演習ⅦB	1・2後		2			1				
	健康スポーツ学演習ⅦA	1・2前		2							
	健康スポーツ学演習ⅦB	1・2後		2							
	健康スポーツ学総合演習ⅠA(未開講)	1・2前		2		6	6				
	健康スポーツ学総合演習ⅠB(未開講)	1・2後		2		2	2				
	健康スポーツ学総合演習ⅡA(未開講)	1・2前		2		6	6				
	健康スポーツ学総合演習ⅡB(未開講)	1・2後		2		5	1				
	国際健康スポーツ学研究ⅠA(未開講)	1・2前		2			1				
	国際健康スポーツ学研究ⅠB	1・2後		2			1				
	国際健康スポーツ学研究Ⅱ(未開講)	1・2後		2			2				
	国際健康スポーツ学研究ⅢA	1・2前		2		1					
	国際健康スポーツ学研究ⅢB	1・2後		2		1					
	小計(25科目)	—	0	50	0	6	6	0	0	0	兼1
研 究 指 導 科 目	健康スポーツ学研究指導ⅠA	1前		2		6	5				
	健康スポーツ学研究指導ⅠB	1後		2		6	5				
	健康スポーツ学研究指導ⅡA	2前		2							
	健康スポーツ学研究指導ⅡB	2後		2							
	小計(4科目)	—	0	8	0	6	5	0	0	0	兼0
合計(60科目)		—	2	118	0	6	6	0	0	0	兼11
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「ライフデザイン学基礎特論」を履修・単位修得すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「ライフデザイン学基礎特論」の専任教員等の配置が「教授3・准教授1・兼9」から「教授2・准教授2・兼9」に変更となっているが設置計画どおりである。
- ・「海外社会調査演習Ⅰ・Ⅱ」について、教育内容充実のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1・兼1」に変更。

【令和元年度】

- ・「健康スポーツ学特論ⅥA・ⅥB」について、担当教員の平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・「健康スポーツ学総合演習ⅠA・ⅠA」について、担当教員1名の平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授6」から「教授7・准教授5」に変更。
- ・「健康スポーツ学総合演習ⅡB」について、担当教員1名の平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「教授5・准教授1」から「教授6」に変更。
- ・「国際健康スポーツ学研究Ⅱ」について、担当教員1名の平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1・准教授2」に変更。
- ・「健康スポーツ学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」について、担当教員1名の平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授5」から「教授7・准教授4」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	59 科目	0 科目	60 科目	1 科目 [増減なし]	59 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	60 科目 [増減なし]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{60} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～2041/3/31 H41.4.18～H41.4.17 借用期間の修正 (30)		
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡			
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡			
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	赤羽台キャンパス土地登記手続等 による修正 (30)		
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得による変更 (元)		
(2) 校 舎	専 用	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡	0㎡	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)		
	共 用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	330室 327室 328室	153室 157室	400室 403室 401室	35室 33室 12人 14人 (補助職員 27人)	5室 (補助職員 0人)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)	
	実験実習室							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻			12 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数
	ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻	1,581,832 [349,515] 1,582,705 [352,742] 1,619,535 [353,557] (1,581,832 [347,373]) (1,581,832 [350,424]) (1,581,832 [350,403])	16,875 [5,492] 17,378 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,378 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,586] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,586]) (26,156 [26,519])	23,167 22,879 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更 (30)
	計	1,581,832 [349,515] 1,582,705 [352,742] 1,619,535 [353,557] (1,581,832 [347,373]) (1,581,832 [350,424]) (1,581,832 [350,403])	16,875 [5,492] 17,378 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,378 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,586] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,586]) (26,156 [26,519])	23,167 22,879 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更 (元)
(6) 図 書 館	面 積	17,498.63㎡ 17,211.03㎡	閲覧座席数	2,758 2,762 2,746	収 納 可 能 冊 数	2,081,075 2,122,700 2,121,775	大学全体	
	面 積	21,067.33㎡ 24,097.14㎡ 24,240.08㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要	野球場1面、サッカー場2面	テニスコート13面等		面積：改修工事等による変更 (30) / 閲覧座席数・収納可能冊数：白山キャンパス及び川越キャンパスの書架及び閲覧席の増減による変更 (30) 白山キャンパス及び川越キャンパスの書架並びに板倉キャンパス閲覧席の増減による変更 (元)	
(7) 体 育 館	面 積	21,067.33㎡ 24,097.14㎡ 24,240.08㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
	野球場1面、サッカー場2面	テニスコート13面等				新川越体育館の計画時面積と竣工面積の差等による変更 (30) 運動部用倉庫取壊しによる変更 (元)		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当り研究費等：研究科単位では算出不能なため、学部との合計
	教員1人当り研究費等	532千円	532千円	図書購入費	685千円	641千円 815千円	616千円 959千円	共同研究費等：大学全体
	共同研究費等	80,000千円	80,000千円	設備購入費	3,549千円	983千円 4,223千円	630千円 4,969千円	図書購入費：図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む。）を含む。
	学生1人当り納付金	第1年次 810千円	第2年次 540千円	第3年次 －	第4年次 －	第5年次 －	第6年次 －	設備購入費：申請研究科全体
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。						計画見直しに伴う変更 (30) 計画見直しに伴う変更 (元)

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コ ミュニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会 学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士(社会心理 学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修士(社会福 祉学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修士(マーケ ティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止

理工学研究科									
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域 学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光 学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域 学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光 学)	—	—	平成17 年度	同上
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャル ワーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士 (保育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康ス ポーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナイン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオナイン融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	

経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士（経営学）又は博士（マーケティング）	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士（経営学）	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士（経営学）または博士（会計・ファイナンス）	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更（△2）
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士（マーケティング）	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.33	—	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.66	—	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士（国際地域学）	0.60	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士（国際観光学）	0.50	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士（国際地域学）	—	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士（国際観光学）	—	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士（生命科学）	0.50	—	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（ソーシャルワーク）	0.90	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（健康スポーツ学）	0.80	—	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士（人間環境デザイン学）	0.00	—	平成30年度	同上	

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナサイエンス融合)	0.50	—	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体 (大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止 平成25年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	

法学部 第1部											
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.07	—	昭和31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.08	—	昭和40 年度	同上		
社会学部 第1部											
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上		
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	—	平成12 年度	同上		
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上		
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4 年度	同上		
理工学部											
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36 年度	埼玉県川越市鯨井2100		
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21 年度	同上		
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36 年度	同上		
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36 年度	同上		
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37 年度	同上		
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37 年度	同上		
国際地域学部											
国際地域学科						—		平成9 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
国際学部											
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	300	学士(グローバル・ イノベーション学)	0.99	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
国際地域学科						1.02		平成29 年度	同上		
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29 年度	同上		
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29 年度	同上		
国際観光学部											
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
生命科学部											
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号		
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21 年度	同上		
ライフデザイン学部											
生活支援学科						1.05		平成17 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号		
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21 年度	同上		
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21 年度	同上		
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17 年度	同上		
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18 年度	同上		
総合情報学部											
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21 年度	埼玉県川越市鯨井2100		

食環境科学部														
食環境科学科						1.04		平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号					
フードサイエンス専攻					4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25年度	同上	
スポーツ・食品機能専攻					4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25年度	同上	
健康栄養学科					4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25年度	同上	
情報連携学部														
情報連携学科					4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
文学部 第2部														
東洋思想文化学科					4	30		120	学士 (文学)	1.12	—	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学科					4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31年度	同上	平成25年度より学生募集停止
日本文学文化学科					4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27年度	同上	平成29年度入学定員変更(△30)
教育学科					4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39年度	同上	
経済学部 第2部														
経済学科					4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学部 第2部														
経営学科					4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
法学部 第2部														
法律学科					4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会学部 第2部														
社会学科					4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会福祉学科					4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13年度	同上	平成31年度入学定員変更(5) 平成31年度3年次編入学定員廃止(△10)
大学全体(学部)					—	7306	—	28060	—	—	—	—	—	
通信教育部														
文学部														
日本文学文化学科					4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39年度		平成30年度より学生募集停止
法学部														
法律学科					4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41年度		平成30年度より学生募集停止
大学全体(通信教育部)					—	—	—	—	—	—	—	—	—	

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻 修士課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	大迫 正文 (61) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学特論Ⅲ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅲ B【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅲ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅲ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B
専	教授 (専攻長)	古川 寛 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論Ⅴ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅴ B【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅴ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅴ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B
専	教授	神野 宏司 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論Ⅱ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅱ B【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅱ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅱ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅰ B 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	大迫 正文 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学演習Ⅲ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅲ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B
専	教授 (専攻長)	古川 寛 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学演習Ⅴ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅴ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B
専	教授	神野 宏司 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学演習Ⅱ A【隔年】 健康スポーツ学演習Ⅱ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅰ B 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	大迫 正文 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学特論Ⅲ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅲ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B
専	教授 (専攻長)	古川 寛 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論Ⅴ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅴ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B
専	教授	神野 宏司 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学特論Ⅱ A【隔年】 健康スポーツ学特論Ⅱ B【隔年】 健康スポーツ学総合演習Ⅰ A 健康スポーツ学総合演習Ⅰ B 健康スポーツ学総合演習Ⅱ A 健康スポーツ学総合演習Ⅱ B 健康スポーツ学研究指導Ⅰ A 健康スポーツ学研究指導Ⅰ B 健康スポーツ学研究指導Ⅱ A 健康スポーツ学研究指導Ⅱ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	齊藤 恭平 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論ⅠA【隔 年】 健康スポーツ学特論ⅠB【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅠA【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅠB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	教授	浅間 正通 (60) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論ⅡA 健康スポーツ学特論ⅡB 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 国際健康スポーツ学研究ⅢA 国際健康スポーツ学研究ⅢB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	教授	鈴木 哲郎 (66) ＜平成30年4月＞ 体育学修士
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論ⅣA【隔 年】 健康スポーツ学特論ⅣB【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅣA【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅣB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	齊藤 恭平 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学演習ⅠA【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅠB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB
専	教授	浅間 正通 (61) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		健康スポーツ学特論ⅡA 健康スポーツ学特論ⅡB 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 国際健康スポーツ学研究ⅢA 国際健康スポーツ学研究ⅢB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB
専	教授	鈴木 哲郎 (67) ＜平成30年4月＞ 体育学修士
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学演習ⅣA【隔 年】 健康スポーツ学演習ⅣB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	齊藤 恭平 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論ⅠA【隔 年】 健康スポーツ学特論ⅠB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	教授	浅間 正通 (62) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		ライフデザイン学基礎特論※ 健康スポーツ学特論ⅡA 健康スポーツ学特論ⅡB 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 国際健康スポーツ学研究ⅢA 国際健康スポーツ学研究ⅢB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	教授 (専 攻 長)	鈴木 哲郎 (68) ＜平成30年4月＞ 体育学修士
		健康スポーツ学特論ⅣA【隔 年】 健康スポーツ学特論ⅣB【隔 年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	岩本 紗由美 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（スポーツ科学）
		健康スポーツ学特論ⅥA【隔年】 健康スポーツ学特論ⅥB【隔年】 健康スポーツ学演習ⅦA【隔年】 健康スポーツ学演習ⅦB【隔年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 国際健康スポーツ学研究Ⅱ※ 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	准教授	鈴木（松本） 智子 (50) ＜平成30年4月＞ 修士（人文科学）
		健康スポーツ学特論ⅦA【隔年】 健康スポーツ学特論ⅦB【隔年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA
兼任	教授	高橋 直美 (55) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	是枝 喜代治 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	中原 美恵 (62) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	内田 千春 (53) ＜平成30年4月＞ Ph. D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	杉田 記代子 (61) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	岩本 紗由美 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（スポーツ科学）
		健康スポーツ学演習ⅦA【隔年】 健康スポーツ学演習ⅦB【隔年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅠB 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 国際健康スポーツ学研究Ⅱ※ 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB
専	准教授	鈴木（松本） 智子 (51) ＜平成30年4月＞ 修士（人文科学）
		健康スポーツ学特論ⅦA【隔年】 健康スポーツ学特論ⅦB【隔年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA
兼任	教授	高橋 直美 (56) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	是枝 喜代治 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	中原 美恵 (63) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	内田 千春 (54) ＜平成30年4月＞ Ph. D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	杉田 記代子 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	岩本 紗由美 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（スポーツ科学）
		健康スポーツ学特論ⅥA【隔年】 健康スポーツ学特論ⅥB【隔年】 健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA 健康スポーツ学総合演習ⅡB 国際健康スポーツ学研究Ⅱ※ 健康スポーツ学研究指導ⅠA 健康スポーツ学研究指導ⅠB 健康スポーツ学研究指導ⅡA 健康スポーツ学研究指導ⅡB
専	准教授	鈴木（松本） 智子 (52) ＜平成30年4月＞ 修士（人文科学）
		健康スポーツ学総合演習ⅠA 健康スポーツ学総合演習ⅡA
兼任	教授	高橋—直美 —(57)— ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）※
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	是枝 喜代治 (59) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	中原 美恵 (64) ＜平成30年4月＞ 修士（教育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	内田 千春 (55) ＜平成30年4月＞ Ph. D.（米国）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	杉田 記代子 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		ライフデザイン学基礎特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	嶋崎 博嗣 (49) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	山本 美香 (54) ＜平成30年4月＞ 文学修士
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	准教授	八木 裕子 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	准教授	的場（木内）智子 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	講師	片山 佳代子 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学特論ⅩⅢ A 健康スポーツ学特論ⅩⅢ B 健康スポーツ学特論ⅩⅣ A 健康スポーツ学特論ⅩⅣ B
兼任	講師	寺島 達夫 (67) ＜平成30年4月＞ 歯学博士
		健康スポーツ学演習Ⅵ A 健康スポーツ学演習Ⅵ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	嶋崎 博嗣 (50) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	山本 美香 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	准教授	八木 裕子 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ
兼任	准教授	的場（木内）智子 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	講師	片山 佳代子 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学特論ⅩⅢ A 健康スポーツ学特論ⅩⅢ B 健康スポーツ学特論ⅩⅣ A 健康スポーツ学特論ⅩⅣ B
兼任	講師	寺島 達夫 (68) ＜平成30年4月＞ 歯学博士
		健康スポーツ学演習Ⅵ A 健康スポーツ学演習Ⅵ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	嶋崎 博嗣 (51) ＜平成30年4月＞ 修士（体育学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	山本 美香 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	教授	渡辺（門脇）裕美 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（社会福祉学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	准教授	八木 裕子 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（介護福祉・ケアマネジメント学）
		ライフデザイン学基礎特論※ 海外社会調査演習Ⅰ 海外社会調査演習Ⅱ
兼任	准教授	的場（木内）智子 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（文学）
		ライフデザイン学基礎特論※
兼任	講師	片山 佳代子 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		健康スポーツ学特論ⅩⅢ A 健康スポーツ学特論ⅩⅢ B 健康スポーツ学特論ⅩⅣ A 健康スポーツ学特論ⅩⅣ B
兼任	講師	寺島 達夫 (69) ＜平成30年4月＞ 歯学博士
		健康スポーツ学演習Ⅵ A 健康スポーツ学演習Ⅵ B

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・山本美香兼任教授が平成30年3月付で「博士（学術）」取得。

【令和元年度】

・「ライフデザイン学基礎特論」担当者変更に伴い、兼任教員に渡辺裕美教授を追加かつ高橋直美教授を削除。
・岩本紗由美が平成31年4月付で准教授から教授へ昇格。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
6	6	0	0	12	7	5	0	0	12
(6)	(6)	(0)	(0)	(12)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
11	0	1			11	0	1		
(11)	(0)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
7	5	0	0	12	7	5	0	0	12
[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
11	0	1			11	0	1		
[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{12} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年3月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<ライフデザイン学研究科健康スポーツ学専攻 修士課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・本研究科への入学試験は8月と2月に実施する。	・入学者増のため、令和元年度実施入学試験より8月、11月、2月の3回実施する。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチング アシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

● 研究倫理について学生を指導する上での留意点（ライフデザイン学研究科）

・講演会形式（外部講師招聘）

平成31年3月14日 参加者：32名

○=東洋大学全学実施・●=各学部/研究科での実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめた「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進度」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。(URL: <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>)

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上目指している。

その他、ライフデザイン学研究科独自の取組みとして平成30年度に院生アンケートを実施し、集計結果を研究科委員会で共有した。集計結果に基づき、教育研究体制の改善策を各専攻で検討の上、集計結果および改善策等を学生へ公開する予定である。また、令和元年度以降も院生アンケートを実施する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名 東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福 川 伸 次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安 齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため (元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月)		
研究科長	(オオサコ マサフミ) 大 迫 正 文 (平成30年4月)		
専 攻 長	(ヨシウラ トオル) 吉 浦 輪 (平成30年4月)	(スギタ キヨコ) 杉 田 記代子 (平成31年4月)	吉浦氏が令和元年度国内特別研究員のため(元) 変更年月日：平成31年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学研究科 ヒューマンライフ学専攻 (博士後期課程) 博士(社会福祉学) 又は 博士(健康スポーツ学)	社会学・社会福祉学関係 教育学・保育学関係 体育関係	3年	5人	— 年次 — 人	15人	基礎となる学部等 ライフデザイン学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							5人 一人		5人 一人		0.80倍	一 倍	
(ー)							(ー)						
[ー]							[ー]						
志願者数							5	ー	3	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
受験者数							5 ー		3 ー		0.80倍	一 倍	
(ー)							(ー)						
[ー]							[ー]						
							5	ー	3	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
合格者数							5 ー		3 ー		0.80倍	一 倍	
(ー)							(ー)						
[ー]							[ー]						
							5	ー	3	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
B 入学者数							5 ー		3 ー		0.80倍	一 倍	
(ー)							(ー)						
[ー]							[ー]						
							5	ー	3	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
入学定員超過率 B/A							1.00		0.60		0.80倍	一 倍	
(ー)							(ー)						
[ー]							[ー]						
							5	ー	3	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次							5 [—]	— [—]	4 [—]	— [—]	令和元年度の1年次生には、平成30年度 春入学学生1名含む（休学のため進級せ ず）
2 年次									4 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次											
4 年次											
計	— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		5 [—] (—)		8 [—] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [—]内には、留學生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ (—)内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	5 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	8 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- | (記入項目例)・就学意欲の低下 | | ・学力不足 | | ・他の教育機関への入学・転学 | | ・海外留学 | |
|-----------------|----------------|--------|-----|----------------|--|-------|--|
| ・就職 | ・学生個人の身心に関する事情 | ・家庭の事情 | ・除籍 | ・その他 | | | |

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0.00} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜ライフデザイン学研究科ヒューマンライフ学専攻 博士後期課程＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目共通	英語プレゼンテーション演習	1-2-3期		2		1					
	小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	兼0
生活支援学分野	生活支援学研究ⅠA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅠB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅡA	1-2-3期		2							兼1
	生活支援学研究ⅡB	1-2-3期		2							兼1
	生活支援学研究ⅢA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅢB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅣA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅣB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅤA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅤB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅥA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅥB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅦA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅦB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅧA	1-2-3期		2							兼1
	生活支援学研究ⅧB	1-2-3期		2							兼1
	小計(16科目)	-	0	32	0	6	0	0	0	0	兼2
健康スポーツ学分野	健康スポーツ学研究ⅠA	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅠB	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡA	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡB	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢA	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢB	1-2-3期		2		1					
	小計(6科目)	-	0	12	0	3	0	0	0	0	兼0
研究指導科	ヒューマンライフ学研究指導	1-2-3期		—		9					兼1
	小計(1科目)	-	0	0	0	9	0	0	0	0	兼1
合計(24科目)		-	0	46	0	10	0	0	0	0	兼2
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3) 主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目共通	英語プレゼンテーション演習(未開講)	1-2-3期		2		1					
	小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	兼0
生活支援学分野	生活支援学研究ⅠA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅠB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅡA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅡB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅢA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅢB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅣA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅣB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅤA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅤB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅥA	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅥB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅦA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅦB	1-2-3期		2		1					
	生活支援学研究ⅧA(未開講)	1-2-3期		2							兼1
	生活支援学研究ⅧB	1-2-3期		2							兼1
	小計(16科目)	-	0	32	0	7	0	0	0	0	兼1
健康スポーツ学分野	健康スポーツ学研究ⅠA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅠB	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡB	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢA(未開講)	1-2-3期		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢB	1-2-3期		2		1					
	小計(6科目)	-	0	12	0	3	0	0	0	0	兼0
研究指導科	ヒューマンライフ学研究指導	1-2-3期		—		10					
	小計(1科目)	-	0	0	0	10	0	0	0	0	兼0
合計(24科目)		-	0	46	0	11	0	0	0	0	兼1
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3) 主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 共 目 通	英語プレゼンテーション演習(未開講)	1-2-3前		2		1					
	小計(1科目)	—	0	2	0	1	0	0	0	0	兼0
生 活 支 援 学 分 野	生活支援学研究ⅠA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅠB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅡA	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅡB	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅢA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅢB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅣA	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅣB	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅤA	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅤB	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅥA	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅥB	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅦA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	生活支援学研究ⅦB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	生活支援学研究ⅧA(未開講)	1-2-3前		2							兼1
	生活支援学研究ⅧB(未開講)	1-2-3後		2							兼1
	小計(16科目)	—	0	32	0	7	0	0	0	0	兼1
健 康 ス ポー ツ 学 分 野	健康スポーツ学研究ⅠA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅠB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅡB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢA(未開講)	1-2-3前		2		1					
	健康スポーツ学研究ⅢB(未開講)	1-2-3後		2		1					
	小計(6科目)	—	0	12	0	3	0	0	0	0	兼0
研 究 指 導 科	ヒューマンライフ学研究指導	1-2-3前		—		10					
	小計(1科目)	—	0	0	0	10	0	0	0	0	兼0
合計(24科目)			—	0	46	0	11	0	0	0	兼1
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3) 主指導教授の講義科目は、同一科目であっても各年度毎セメスタ履修すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「生活支援学ⅡA・ⅡB」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者（教授職）の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・「ヒューマンライフ学研究指導」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年度に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の平成29年度末退職、および後任者（教授職）の平成30年4月1日付採用のため、専任教員等の配置を「教授9・兼1」から「教授10」に変更。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	24 科目	0 科目	24 科目	0 科目 [増減なし]	24 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	24 科目 [増減なし]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{24} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～2041/3/31 H11.4.18～H41.4.17 借用期間の修正 (30)
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡	
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	赤羽台キャンパス土地登記手続等 による修正 (30)
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得による変更 (元)
(2) 校 舎	専 用	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡	0㎡	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)
	共 用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)		
(3) 教 室 等	講 義 室	330室 327室 328室	153室 157室	400室 403室 401室	35室 33室 12人 14人 (補助職員 27人)	5室 (補助職員 0人)
	情報処理学習施設					改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		
		ライフデザイン学研究科ヒューマンライフ学専攻		11 室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点
	ライフデザイン学研究 科ヒューマンライフ学専 攻	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,581,806 [347,373]) (4,551,493 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,593]) (26,156 [26,519])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	— — — (—) (—) (—)
	計	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,581,806 [347,373]) (4,551,493 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,593]) (26,156 [26,519])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	— — — (—) (—) (—)
(6) 図 書 館	面 積	17,498.63㎡ 17,211.03㎡	2,758 2,763 2,746	2,081,075 2,122,706 2,121,775	大学全体	
	閱 覧 座 席 数				面積：改修工事等による変更 (30) / 閱 覧座席数・収納可能冊数：白山キャンパス及 び川越キャンパスの書架及び閲覧席の増減に よる変更 (30) 白山キャンパス及び川越キャンパスの書架並びに 閲覧スペース閲覧席の増減による変更 (元)	
(7) 体 育 館	面 積	21,067.33㎡ 24,097.14㎡ 24,240.08㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体	
	野 球 場 1 面、サ ッ カ ー 場 2 面		テ ニ ス コ ー ト 13 面 等		新川越体育館の計画時面積と竣工面積の 差等による変更 (30) 運動部用倉庫取壊しによる変更 (元)	
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等		532千円	532千円	図書購入費	685千円
	共 同 研 究 費 等		80,000千円	80,000千円	設備購入費	3,549千円
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次
		810千円	540千円	—	—	—
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コ ミュニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会 学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士(社会心理 学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修士(社会福 祉学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修士(マーケ ティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止

理工学研究科									
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域 学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光 学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域 学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光 学)	—	—	平成17 年度	同上
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャル ワーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士 (保育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康ス ポーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナイン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオナイン融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	

経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士（経営学）又は博士（マーケティング）	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士（経営学）	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士（経営学）または博士（会計・ファイナンス）	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更（△2）
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士（マーケティング）	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.33	—	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.66	—	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士（国際地域学）	0.60	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士（国際観光学）	0.50	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士（国際地域学）	—	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士（国際観光学）	—	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士（生命科学）	0.50	—	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（ソーシャルワーク）	0.90	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（健康スポーツ学）	0.80	—	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士（人間環境デザイン学）	0.00	—	平成30年度	同上	

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナサイエンス融合)	0.50	—	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体 (大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止 平成25年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	

法学部 第1部									
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.07	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.08	—	昭和40年度	同上
社会学部 第1部									
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12年度	同上
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	—	平成12年度	同上
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12年度	同上
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4年度	同上
理工学部									
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21年度	同上
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36年度	同上
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36年度	同上
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37年度	同上
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37年度	同上
国際地域学部									
国際地域学科						—		平成9年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22年度	同上
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22年度	同上
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13年度	同上
国際学部									
グローバル・イノベーション学科	4	100	—	300	学士 (グローバル・イノベーション学)	0.99	—	平成29年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
国際地域学科						1.02		平成29年度	同上
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29年度	同上
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29年度	同上
国際観光学部									
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
生命科学部									
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21年度	同上
ライフデザイン学部									
生活支援学科						1.05		平成17年度	埼玉県朝霞市岡48番1号
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21年度	同上
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21年度	同上
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17年度	同上
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18年度	同上
総合情報学部									
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21年度	埼玉県川越市鯨井2100

食環境科学部									
食環境科学科									
フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25年度	同上
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25年度	同上
情報連携学部									
情報連携学科	4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
文学部 第2部									
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	1.12	—	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31年度	同上
日本文学文化学科	4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27年度	同上
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39年度	同上
経済学部 第2部									
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
経営学部 第2部									
経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
法学部 第2部									
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会学部 第2部									
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会福祉学科	4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13年度	同上
大学全体（学部）	—	7306	—	28060	—	—	—	—	—
通信教育部									
文学部									
日本文学文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39年度	平成30年度より学生募集停止
法学部									
法律学科	4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41年度	平成30年度より学生募集停止
大学全体（通信教育部）	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<ライフデザイン学研究所ヒューマンライフ学専攻 博士後期課程>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 長)	大迫 正文 (61) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学研究ⅠA 健康スポーツ学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授 (専攻 長)	吉浦 輪 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅣA 生活支援学研究ⅣB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	是枝 喜代治 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		生活支援学研究ⅠA 生活支援学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	稲沢 公一 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅤA 生活支援学研究ⅤB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	白石 弘巳 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		生活支援学研究ⅡA 生活支援学研究ⅡB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	渡辺（門脇）裕美 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅢA 生活支援学研究ⅢB ヒューマンライフ学研究指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 長)	大迫 正文 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学研究ⅠA 健康スポーツ学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授 (専攻 長)	吉浦 輪 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅣA 生活支援学研究ⅣB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	是枝 喜代治 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		生活支援学研究ⅠA 生活支援学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	稲沢 公一 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅤA 生活支援学研究ⅤB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	吉田 光爾 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（保健学）
		生活支援学研究ⅡA 生活支援学研究ⅡB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	渡辺（門脇）裕美 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅢA 生活支援学研究ⅢB ヒューマンライフ学研究指導

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 長)	大迫 正文 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（歯学）
		健康スポーツ学研究ⅠA 健康スポーツ学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授 (専 攻 長)	吉浦 輪 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅣA 生活支援学研究ⅣB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	是枝 喜代治 (59) ＜平成30年4月＞ 博士（教育学）
		生活支援学研究ⅠA 生活支援学研究ⅠB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	稲沢 公一 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅤA 生活支援学研究ⅤB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	吉田 光爾 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（保健学）
		生活支援学研究ⅡA 生活支援学研究ⅡB ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	渡辺（門脇）裕美 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（社会福祉学）
		生活支援学研究ⅢA 生活支援学研究ⅢB ヒューマンライフ学研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 千春 (53) ＜平成30年4月＞ Ph. D. (米国)
		生活支援学研究Ⅵ A 生活支援学研究Ⅵ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	杉田 記代子 (61) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		生活支援学研究Ⅶ A 生活支援学研究Ⅶ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	齊藤 恭平 (56) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅲ A 健康スポーツ学研究Ⅲ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	神野 宏司 (53) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅱ A 健康スポーツ学研究Ⅱ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	浅間 正通 (60) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		英語プレゼンテーション演習
兼任	教授	白石 弘巳 (63) ＜平成31年4月＞ 博士 (医学)
		生活支援学研究Ⅱ A 生活支援学研究Ⅱ B ヒューマンライフ学研究指導
兼任	講師	荒牧 重人 (61) ＜平成30年4月＞ 法学修士※
		生活支援学研究Ⅷ A 生活支援学研究Ⅷ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 千春 (54) ＜平成30年4月＞ Ph. D. (米国)
		生活支援学研究Ⅵ A 生活支援学研究Ⅵ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	杉田 記代子 (62) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		生活支援学研究Ⅶ A 生活支援学研究Ⅶ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	齊藤 恭平 (57) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅲ A 健康スポーツ学研究Ⅲ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	神野 宏司 (54) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅱ A 健康スポーツ学研究Ⅱ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	浅間 正通 (61) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		英語プレゼンテーション演習
兼任	講師	荒牧 重人 (62) ＜平成30年4月＞ 法学修士※
		生活支援学研究Ⅷ A 生活支援学研究Ⅷ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 千春 (55) ＜平成30年4月＞ Ph. D. (米国)
		生活支援学研究Ⅵ A 生活支援学研究Ⅵ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授 (専攻長)	杉田 記代子 (63) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		生活支援学研究Ⅶ A 生活支援学研究Ⅶ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	齊藤 恭平 (58) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅲ A 健康スポーツ学研究Ⅲ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	神野 宏司 (55) ＜平成30年4月＞ 博士 (医学)
		健康スポーツ学研究Ⅱ A 健康スポーツ学研究Ⅱ B ヒューマンライフ学研究指導
専	教授	浅間 正通 (62) ＜平成30年4月＞ 教育学修士
		英語プレゼンテーション演習
兼任	講師	荒牧 重人 (63) ＜平成30年4月＞ 法学修士※
		生活支援学研究Ⅷ A 生活支援学研究Ⅷ B

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・白石弘巳教授の平成30年3月退職に伴い、吉田光爾教授が平成30年4月就任。このことにより、平成31年4月白石弘巳兼任教授の就任もなし。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
10	0	0	0	10	11	0	0	0	11
(11)	(0)	(0)	(0)	(11)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
9	0	1			10	0	1		
(10)	(0)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
11	0	0	0	11	11	0	0	0	11
[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
10	0	1			10	0	1		
[1]	[0]	[0]			[1]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{10} = \boxed{110} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	白石 弘巳	H30.4	選択	生活支援学研究ⅡA	①	一身上の都合により平成30年3月末日付退職のため、就任辞退（30）			
				選択	生活支援学研究ⅡB	①				
				選択	ヒューマンライフ学研究指導	①				
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{10} = 10 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【(3)-①(白石)】 後任として、退職教員のすべての担当科目を代替可能な専任教員(教授職)を採用したため、本専攻の教育研究の遂行には支障がないと判断している。 学生への周知については、4月の入学に先立って、後任の専任教員が作成したシラバスを3月から公開していたほか、就学手続と同日に行った専攻ガイダンス内にて、学生との顔合わせを実施した。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年3月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<ライフデザイン学研究科ヒューマンライフ学専攻 博士後期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・ 委員会の年次活動計画について
- ・ 部会の設置と各委員の配属について
- ・ 授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・ 各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチングアシスタント）/SA（チューデントアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

● 研究倫理について学生を指導する上での留意点（ライフデザイン学研究科）

・講演会形式（外部講師招聘）

平成31年3月14日 参加者：32名

○=東洋大学全学実施・●=各学部/研究科での実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめた「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進度」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。(URL: <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>)

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上目指している。

その他、ライフデザイン学研究科独自の取組みとして平成30年度に院生アンケートを実施し、集計結果を研究科委員会で共有した。集計結果に基づき、教育研究体制の改善策を各専攻で検討の上、集計結果および改善策等を学生へ公開する予定である。また、令和元年度以降も院生アンケートを実施する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名 東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福 川 伸 次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安 齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため (元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月)		
研究科長	(オオサコ マサフミ) 大 迫 正 文 (平成30年4月)		
専 攻 長	(タカハシ ヨシユキ) 高 橋 良 至 (平成30年4月)	(ウチダ ヨシオ) 内 田 祥 士 (平成31年4月)	高橋氏がライフデザイン学部 の学科長に就任したため (元) 変更年月日：平成31年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を
()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学研究科 人間環境デザイン専攻 (博士前期課程) 修士(人間環境デザイン学)	家政関係	2年	10人	— 年次 — 人	20人	基礎となる学部等 ライフデザイン 学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							10人	一人	10人	一人	0.30倍	一 倍	
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[ー]	[ー]			
志願者数							4	ー	11	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[2]	[ー]	[8]	[ー]			
受験者数							3	ー	10	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[1]	[ー]	[7]	[ー]			
合格者数							1	ー	7	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[4]	[ー]			
B 入学者数							1	ー	5	ー			
							(ー)	(ー)	(ー)	(ー)			
							[ー]	[ー]	[2]	[ー]			
入学定員超過率 B / A							0.10		0.50				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次							1 [—]	— [—]	5 [2]	— [—]	
2年次									1 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次											
4年次											
計	— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		1 [—] (—)		6 [2] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	1 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	6 人	0 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{1} = \boxed{0.00} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0.00} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<ライフデザイン学研究所人間環境デザイン専攻 博士前期課程>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講 義 ・ 演 習 科 目	人間環境デザイン 基礎特論	1・2前	2			6	7				兼1
	建築計画特別演 習A	1・2前		2		1	2				
	建築計画特別演 習B	1・2前		2		1	2				
	建築設計特別演 習A	1・2前		2		1					兼1
	建築設計特別演 習B	1・2前		2		1					兼1
	建築構法特別演 習	1・2前		2			1				兼1
	生活支援デザイン 特別演習A	1・2前		2		1					兼1
	生活支援デザイン 特別演習B	1・2前		2		1	1				
	製品デザイン特別 演習A	1・2前		2		1	3				
	製品デザイン特別 演習B	1・2前		2		1	3				
	地域計画特論	1・2後		2			1				
	建築計画特論	1・2前		2			1				
	建築設計特論	1・2後		2		1					
	建築意匠特論	1・2前		2		1					
	建築構法特論	1・2後		2			1				
	生活支援工学特 論	1・2後		2			1				
	生活支援デザイン 特論	1・2前		2		1					
	メカトロニクス・デ ザイン特論	1・2前		2		1					
	住居計画特論	1・2後		2		1					
	製品デザイン特論	1・2前		2		1					
	アクセシブルデザ イン特論	1・2前		2			1				
	ヒューマンインター フェイス特論	1・2前		2			1				
	インテリアデザイン 特論	1・2前		2			1				
	生活空間計画特 論	1・2前		2		1					
	医療福祉建築特 論	1・2後		2			1				
	建築環境特論	1・2前		2							兼1
	コミュニケーション 支援技術特論	1・2後		2							兼1
	認知心理学特論	1・2後		2							兼1
	国際・産学協同特 別実習ⅠA	1・2前		2		6	7				兼1
	国際・産学協同特 別実習ⅠB	1・2後		2		6	7				兼1
	国際・産学協同特 別実習Ⅱ	1・2前		2		6	7				兼1
	小計(31科目)	-	2	60	0	6	7	0	0	0	兼7

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講 義 ・ 演 習 科 目	人間環境デザイン 基礎特論	1・2前	2			8	6				
	建築計画特別演 習A	1・2前		2			3				
	建築計画特別演 習B	1・2前		2			3				
	建築設計特別演 習A	1・2前		2							
	建築設計特別演 習B	1・2前		2							
	建築構法特別演 習	1・2前		2							
	生活支援デザイン 特別演習A	1・2前		2		2					
	生活支援デザイン 特別演習B	1・2前		2		1	1				
	製品デザイン特別 演習A	1・2前		2							
	製品デザイン特別 演習B	1・2前		2							
	地域計画特論	1・2後		2			1				
	建築計画特論	1・2前		2							
	建築設計特論	1・2後		2							
	建築意匠特論	1・2前		2		1					
	建築構法特論	1・2後		2							
	生活支援工学特 論	1・2後		2			1				
	生活支援デザイン 特論	1・2前		2		1					
	メカトロニクス・デ ザイン特論	1・2前		2							
	住居計画特論	1・2後		2		1					
	製品デザイン特論	1・2前		2		1					
	アクセシブルデザ イン特論	1・2前		2							
	ヒューマンインター フェイス特論	1・2前		2							
	インテリアデザイン 特論	1・2前		2							
	生活空間計画特 論	1・2後		2		1					
	医療福祉建築特 論	1・2後		2			1				
	建築環境特論(未 開講)	1・2前		2							兼1
	コミュニケーション 支援技術特論	1・2後		2							
	認知心理学特論	1・2後		2							兼1
	国際・産学協同特 別実習ⅠA(未開講)	1・2前		2		8	7				
	国際・産学協同特 別実習ⅠB(未開講)	1・2後		2		8	7				
	国際・産学協同特 別実習Ⅱ(未開講)	1・2前		2		8	7				
	小計(31科目)	-	2	60	0	8	7	0	0	0	兼2

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導 科目	人間環境デザイン 学研究指導ⅠA	1前	2			6	7				兼1
	人間環境デザイン 学研究指導ⅠB	1後	2			6	7				兼1
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡA	2前	2			6	7				兼1
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡB	2後	2			6	7				兼1
	小計(4科目)	-	8	0	0	6	7	0	0	0	兼1
合計(35科目)		-	10	60	0	6	7	0	0	0	兼7
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。 (4) 「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導 科目	人間環境デザイン 学研究指導ⅠA	1前	2			8	7				
	人間環境デザイン 学研究指導ⅠB	1後	2			8	7				
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡA	2前	2			8	7				
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡB	2後	2			8	7				
	小計(4科目)	-	8	0	0	8	7				兼0
合計(35科目)		-	10	60	0	8	7	0	0	0	兼2
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。 (4) 「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講 義 ・ 演 習 科 目	人間環境デザイン 基礎特論	1・2前	2			8	6				
	建築計画特別演 習A	1・2前		2							
	建築計画特別演 習B	1・2前		2							
	建築設計特別演 習A(未開講)	1・2前		2		1					兼1
	建築設計特別演 習B(未開講)	1・2前		2		1					兼1
	建築構法特別演 習(未開講)	1・2前		2			1				兼1
	生活支援デザイン 特別演習A	1・2前		2							
	生活支援デザイン 特別演習B	1・2前		2							
	製品デザイン特別 演習A(未開講)	1・2前		2		1	3				
	製品デザイン特別 演習B(未開講)	1・2前		2		1	3				
	地域計画特論	1・2後		2							
	建築計画特論	1・2前		2		1					
	建築設計特論(未 開講)	1・2後		2		1					
	建築意匠特論	1・2前		2							
	建築構法特論	1・2後		2			1				
	生活支援工学特 論	1・2後		2							
	生活支援デザイン 特論	1・2前		2							
	メカトロニクス・デ ザイン特論	1・2前		2		1					
	住居計画特論	1・2後		2							
	製品デザイン特論	1・2前		2							
	アクセシブルデザ イン特論	1・2前		2			1				
	ヒューマンインター フェイス特論(未開 講)	1・2前		2			1				
	インテリアデザイン 特論	1・2前		2			1				
	生活空間計画特 論	1・2前		2							
	医療福祉建築特 論	1・2後		2							
	建築環境特論	1・2前		2							
	コミュニケーション 支援技術特論	1・2後		2							兼1
	認知心理学特論	1・2後		2							
	国際・産学協同特別 実習ⅠA(未開講)	1・2前		2		8	6				
	国際・産学協同特別 実習ⅠB(未開講)	1・2後		2		8	6				
	国際・産学協同特別 実習Ⅱ(未開講)	1・2前		2		8	6				
	小計(31科目)	-	2	60	0	8	6	0	0	0	兼4

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導 科目	人間環境デザイン 学研究指導ⅠA	1前	2			7	6				
	人間環境デザイン 学研究指導ⅠB	1後	2			7	6				
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡA	2前	2								
	人間環境デザイン 学研究指導ⅡB	2後	2								
	小計(4科目)	-	8	0	0	7	6	0	0	0	兼0
合計(35科目)		-	10	60	0	8	6	0	0	0	兼4
卒業要件及び履修方法											
(1) 本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2) 主指導教授の「研究指導ⅠA～ⅡB」を履修・単位修得すること。 (3) 「人間環境デザイン基礎特論」を履修・単位修得すること。 (4) 「特別演習」から2科目を選択して履修し、4単位修得すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・「人間環境デザイン基礎特論」について、担当教員1名の平成30年4月1日付昇格および同教員の平成30年度長期海外研究による担当者変更のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授7・兼1」から「教授8・准教授6」に変更。
 ・「建築計画特論」について、専任教員等の配置が「准教授1」から「教授1」に変更となっているが設置計画どおりである。
 ・「国際・産学協同特別実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ」について、担当教員1名の平成30年4月1日付昇格および同教員の平成30年度長期海外研究による担当者変更のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授7・兼1」から「教授8・准教授6」に変更。
 ・「人間環境デザイン学研究指導ⅠA・ⅠB」について、担当教員1名の平成30年4月1日付昇格および同教員の平成30年度長期海外研究による担当者変更のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授7・兼1」から「教授7・准教授6」に変更。

【令和元年度】

・「人間環境デザイン基礎特論」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年4月に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の代わりに平成31年4月1日付採用の後任者2名（ともに准教授職）が就任したことによる担当者変更、および別担当教員1名の准教授職から教授職への平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授7・兼1」から「教授8・准教授6」に変更。
 ・「建築計画特別演習A・B」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年4月に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の代わりに平成31年4月1日付採用の後任者2名（ともに准教授職）が就任したことによる担当者変更のため、専任教員等の配置を「教授2・准教授1」から「准教授3」に変更。
 ・「生活支援デザイン特別演習A」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年4月に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の代わりに平成31年4月1日付採用の後任者2名（ともに准教授職）が就任したことによる担当者変更のため、専任教員等の配置を「教授1・兼1」から「教授2」に変更。
 ・「生活空間計画特論」について、学生への教育効果を鑑み、配当年次を「1・2前」から「1・2後」に変更。
 ・「国際・産学協同特別実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ」および「人間環境デザイン学研究指導ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」について、平成30年度末定年退職かつ平成31年4月に兼任教授へ任用替え予定であった担当教員の代わりに平成31年4月1日付採用の後任者2名（ともに准教授職）が就任したことによる担当者変更、および別担当教員1名の准教授職から教授職への平成31年4月1日付昇格のため、専任教員等の配置を「教授6・准教授7・兼1」から「教授8・准教授7」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	30 科目	0 科目	35 科目	5 科目 [増減なし]	30 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	35 科目 [増減なし]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{35} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～2041/3/31 H11.4.18～H41.4.17 借用期間の修正 (30)			
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡				
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡				
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	赤羽台キャンパス土地登記手続等 による修正 (30)			
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得による変更 (元)			
(2) 校 舎	専 用	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡	0㎡	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)			
	共 用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	330室 327室 328室	153室 157室	400室 403室 401室	35室 33室 12人 14人 (補助職員 27人)	5室 (補助職員 0人)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)		
	実験実習室								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 (博士前期課程)			15 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	ライフデザイン学研究科人間環境デザイン学専攻(博士前期課程)	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,561,606 [347,373]) (4,551,499 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) 18,698 [18,593] 26,156 [26,519]	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,833) (23,833)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更(30)	
	計	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,561,606 [347,373]) (4,551,499 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) 18,698 [18,593] 26,156 [26,519]	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,833) (23,833)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料：受入数変動による変更(元)	
(6) 図 書 館	面 積	17,498.63㎡ 17,211.03㎡	2,758 2,763 2,746	2,081,075 2,122,706 2,121,775	大学全体	面積：改修工事等による変更 (30) / 閲覧座席数・収納可能冊数：白山キャンパス及び川越キャンパスの書架及び閲覧席の増減による変更(30) 白山キャンパス及び川越キャンパスの書架並びに板倉キャンパス閲覧席の増減による変更(元)			
	収 納 可 能 冊 数								
(7) 体 育 館	面 積	21,067.33㎡ 21,097.14㎡ 21,240.09㎡	野球場1面、サッカー場2面	テニスコート13面等	大学全体	新川越体育館の計画時面積と竣工面積の差等による変更 (30) 運動部用倉庫取壊しによる変更 (元)			
	収 納 可 能 冊 数								
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当たり研究費等：研究科単位では算出不能なため、学部との合計
	教員1人当たり研究費等		532千円	532千円	図書購入費	685千円	641千円 845千円 959千円	616千円 959千円	共同研究費等：大学全体
	共同研究費等		80,000千円	80,000千円	設備購入費	3,549千円	983千円 4,223千円	630千円 4,969千円	図書購入費：図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む。）を含む。
	学生1人当たり 納付金	第1年次 810千円	第2年次 540千円	第3年次 —	第4年次 —	第5年次 —	第6年次 —	設備購入費：申請研究科全体	
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。							計画見直しに伴う変更(30) 計画見直しに伴う変更(元)

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コ ミュニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会 学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士(社会心理 学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修士 (社会福祉学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修士 (マーケティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止

理工学研究科									
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域 学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光 学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域 学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光 学)	—	—	平成17 年度	同上
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャル ワーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士 (保育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康ス ポーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナイン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオナイン融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	

経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士（経営学）又は博士（マーケティング）	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士（経営学）	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士（経営学）または博士（会計・ファイナンス）	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更（△2）
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士（マーケティング）	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.33	—	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.66	—	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士（国際地域学）	0.60	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士（国際観光学）	0.50	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士（国際地域学）	—	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士（国際観光学）	—	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士（生命科学）	0.50	—	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（ソーシャルワーク）	0.90	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（健康スポーツ学）	0.80	—	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士（人間環境デザイン学）	0.00	—	平成30年度	同上	

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナサイエンス融合)	0.50	—	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体 (大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止 平成25年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	

法学部 第1部										
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.07	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.08	—	昭和40年度	同上	
社会学部 第1部										
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12年度	同上	
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	—	平成12年度	同上	
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12年度	同上	
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4年度	同上	
理工学部										
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100	
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21年度	同上	
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36年度	同上	
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36年度	同上	
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37年度	同上	
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37年度	同上	
国際地域学部										
国際地域学科						—		平成9年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22年度	同上	平成29年度より学生募集停止
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22年度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13年度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際学部										
グローバル・イノベーション学科	4	100	—	300	学士 (グローバル・イノベーション学)	0.99	—	平成29年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学科						1.02		平成29年度	同上	
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29年度	同上	
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29年度	同上	
国際観光学部										
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
生命科学部										
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21年度	同上	
ライフデザイン学部										
生活支援学科						1.05		平成17年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21年度	同上	
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21年度	同上	
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17年度	同上	
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18年度	同上	
総合情報学部										
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21年度	埼玉県川越市鯨井2100	

食環境科学部									
食環境科学科									
フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25年度	同上
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25年度	同上
情報連携学部									
情報連携学科	4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
文学部 第2部									
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	1.12	—	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31年度	同上
日本文学文化学科	4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27年度	同上
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39年度	同上
経済学部 第2部									
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
経営学部 第2部									
経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
法学部 第2部									
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会学部 第2部									
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会福祉学科	4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13年度	同上
大学全体(学部)	—	7306	—	28060	—	—	—	—	—
通信教育部									
文学部									
日本文学文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39年度	平成30年度より学生募集停止
法学部									
法律学科	4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41年度	平成30年度より学生募集停止
大学全体(通信教育部)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜ライフデザイン学研究所人間環境デザイン専攻 博士前期課程＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専 攻 長)	高橋 良至 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習B 【隔年】 メカトロニクス・デザイン特論 【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB
専	教授	高橋 儀平 (68) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習A【隔年】 建築計画特別演習B【隔年】 建築計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ
専	教授	水村（青木）容子 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習A【隔年】 建築計画特別演習B【隔年】 住居計画特論【隔年】 生活空間計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専 攻 長)	高橋 良至 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ メカトロニクス・デザイン特論 【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB
専	教授	高橋 儀平 (69) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ
専	教授	水村（青木）容子 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専 攻 長)	高橋 良至 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習B 【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB
専	教授	
専	教授	水村（青木）容子 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習A【隔年】 建築計画特別演習B【隔年】 住居計画特論【隔年】 生活空間計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	奥村 和正 (62) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔年】 製品デザイン特別演習 B【隔年】 製品デザイン特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	教授	内田 祥士 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築設計特別演習 A【隔年】 建築設計特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	教授	櫻井 義夫 (60) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築設計特別演習 B【隔年】 建築意匠特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	奥村 和正 (63) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔年】 製品デザイン特別演習 B【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B
専	教授	内田 祥士 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築設計特別演習 A【隔年】 建築設計特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B
専	教授	櫻井 義夫 (61) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築設計特別演習 B【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	奥村 和正 (64) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	教授 (専攻長)	内田 祥士 (64) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	教授	櫻井 義夫 (62) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築意匠特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	川内 美彦 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習A 【隔年】 生活空間計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB
専	教授	繁成 剛 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習A 【隔年】 生活支援デザイン特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB
専	准教授	菅原 麻衣子 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習A【隔年】 建築計画特別演習B【隔年】 地域計画特論【隔年】 建築計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	川内 美彦 (64) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB
専	教授	繁成 剛 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB
専	教授	菅原 麻衣子 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	
専	教授	繁成 剛 (64) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習A 【隔年】 生活支援デザイン特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB
専	教授	菅原 麻衣子 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習A【隔年】 建築計画特別演習B【隔年】 地域計画特論【隔年】 生活支援デザイン特別演習A 【隔年】 生活空間計画特論【隔年】 国際・産学協同特別実習ⅠA 国際・産学協同特別実習ⅠB 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導ⅠA 人間環境デザイン学研究指導ⅠB 人間環境デザイン学研究指導ⅡA 人間環境デザイン学研究指導ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	名取 発 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築構法特別演習【隔年】 建築構法特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B
専	准教授	嶺 也守寛 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（人間科学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習 B 【隔年】 生活支援工学特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B
専	准教授	仲 綾子 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習 A【隔年】 建築計画特別演習 B【隔年】 医療福祉建築特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	名取 発 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築構法特別演習【隔年】 建築構法特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B
専	准教授	嶺 也守寛 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（人間科学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B
専	准教授	仲 綾子 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	名取 発 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B
専	准教授	嶺 也守寛 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（人間科学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 生活支援デザイン特別演習 B 【隔年】 生活支援工学特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B
専	准教授	仲 綾子 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン基礎特論※ 建築計画特別演習 A【隔年】 建築計画特別演習 B【隔年】 医療福祉建築特論【隔年】 国際・産学協同特別実習Ⅰ A 国際・産学協同特別実習Ⅰ B 国際・産学協同特別実習Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅰ B 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ A 人間環境デザイン学研究指導Ⅱ B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	北 真吾 (56) ＜平成30年4月＞ Master of Design (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 ヒューマンインターフェイス特 論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	准教授	柏樹 良 (54) ＜平成30年4月＞ 学士（造形）
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 インテリアデザイン特論【隔 年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	准教授	池田 千登勢 (53) ＜平成30年4月＞ MBA (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 アクセシブルデザイン特論【隔 年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	北 真吾 (57) ＜平成30年4月＞ Master of Design (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 ヒューマンインターフェイス 特論【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B
専	准教授	柏樹 良 (55) ＜平成30年4月＞ 学士（造形）
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 インテリアデザイン特論【隔 年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B
専	准教授	池田 千登勢 (54) ＜平成30年4月＞ MBA (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 製品デザイン特別演習 A【隔 年】 製品デザイン特別演習 B【隔 年】 アクセシブルデザイン特論 【隔年】 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	北 真吾 (58) ＜平成30年4月＞ Master of Design (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	准教授	柏樹 良 (56) ＜平成30年4月＞ 学士（造形）
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B
専	教授	池田 千登勢 (55) ＜平成30年4月＞ MBA (英国)
		人間環境デザイン基礎特論※ 国際・産学協同特別実習 I A 国際・産学協同特別実習 I B 国際・産学協同特別実習 II 人間環境デザイン学研究指導 I A 人間環境デザイン学研究指導 I B 人間環境デザイン学研究指導 II A 人間環境デザイン学研究指導 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	開原（田尾）典子 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		建築環境特論【隔年】
兼任	講師	山本 成一郎 (51) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		建築設計特別演習 A【隔年】
兼任	講師	関 佳彦 (35) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		建築設計特別演習 B【隔年】
兼任	講師	鈴木 隆之 (48) ＜平成30年4月＞ 修士（都市工学）
		建築構法特別演習【隔年】
兼任	講師	巖淵 守 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		コミュニケーション支援技術 特論【隔年】
兼任	講師	小林 吉之 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（人間科学）
		認知心理学特論【隔年】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	開原（田尾）典子 (44) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		建築環境特論【隔年】
兼任	講師	山本 成一郎 (52) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		建築設計特別演習 A【隔年】
兼任	講師	関 佳彦 (36) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		建築設計特別演習 B【隔年】
兼任	講師	鈴木 隆之 (49) ＜平成30年4月＞ 修士（都市工学）
		建築構法特別演習【隔年】
兼任	講師	巖淵 守 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		コミュニケーション支援技術 特論【隔年】
兼任	講師	小林 吉之 (39) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）
		認知心理学特論【隔年】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	開原（田尾）典子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		建築環境特論【隔年】
兼任	講師	小林 吉之 (40) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）
		認知心理学特論【隔年】

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・担当授業科目（隔年開講科目）が平成30年度未開講のため、兼任講師の開原（田尾）典子および小林吉之につき、平成30年4月就任予定を平成31年4月就任予定へ変更。
- ・菅原麻衣子教授が平成30年度長期海外研究のため、担当科目を既存専任教員が代行。

【令和元年度】

- ・高橋儀平教授および川内美彦教授の平成31年3月退職に伴い、富安亮輔准教授と齋藤博准教授が平成31年4月就任。このことにより、平成31年4月川内美彦兼任教授の就任もなし。
- ・池田千登勢が平成31年4月付で准教授から教授へ昇格。
- ・山本成一郎、関佳彦、鈴木隆之、および巖淵守の兼任教員解任は、担当授業科目（隔年開講科目）の開講状況によるものであり、設置計画どおりである。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
6	7	0	0	13	8	7	0	0	15
(8)	(7)	(0)	(0)	(15)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
13	0	0			15	0	0		
(14)	(0)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
8	7	0	0	15	8	7	0	0	15
[2]	[0]	[0]	[0]	[2]	[2]	[0]	[0]	[0]	[2]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
15	0	0			15	0	0		
[2]	[0]	[0]			[2]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{13} = \boxed{115.38} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{13} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	教授	高橋 儀平	必修	人間環境デザイン基礎特論※	①	平成31年3月末日付で70歳で定年退職（元）							
			選択	建築計画特別演習A【隔年】	①								
			選択	建築計画特別演習B【隔年】	①								
			選択	建築計画特論【隔年】	①								
			選択	国際・産学協同特別実習ⅠA	①								
			選択	国際・産学協同特別実習ⅠB	①								
			選択	国際・産学協同特別実習Ⅱ	①								
2	教授	川内 美彦	必修	人間環境デザイン基礎特論※	①	平成31年3月末日付で65歳で定年退職（元）							
			選択	生活支援デザイン特別演習A【隔年】	①								
			選択	生活空間計画特論【隔年】	①								
			選択	国際・産学協同特別実習ⅠA	①								
			選択	国際・産学協同特別実習ⅠB	①								
			選択	国際・産学協同特別実習Ⅱ	①								
			必修	人間環境デザイン学研究指導ⅠA	①								
			必修	人間環境デザイン学研究指導ⅠB	①								
			必修	人間環境デザイン学研究指導ⅡA	①								
			必修	人間環境デザイン学研究指導ⅡB	①								
合計					後任補充状況の集計								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
2	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	11	科目	選択	11	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【(3)-⑤(高橋・川内)】 退職教員のすべての担当科目は、平成31年4月就任の専任教員2名（ともに准教授）と既存専任教員で担当するため、本専攻の教育研究の遂行には支障がないと判断している。 学生への周知については、各科目後任者が作成したシラバスを平成31年3月から公開していたほか、新入生には就学手続と同日に行った専攻ガイダンス内で説明した。また、在校生へは、教員の退職に先立って、専攻所属教員から直接学生へ周知した。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年3月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 博士前期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・本研究科への入学試験は8月と2月に実施する。	・入学者増のため、令和元年度実施入学試験より8月、11月、2月の3回実施する。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチングアシスタント）/SA（チューデントアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

● 研究倫理について学生を指導する上での留意点（ライフデザイン学研究科）

・講演会形式（外部講師招聘）

平成31年3月14日 参加者：32名

○=東洋大学全学実施・●=各学部/研究科での実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめた「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進度」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。(URL: <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>)

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上目指している。

その他、ライフデザイン学研究科独自の取組みとして平成30年度に院生アンケートを実施し、集計結果を研究科委員会で共有した。集計結果に基づき、教育研究体制の改善策を各専攻で検討の上、集計結果および改善策等を学生へ公開する予定である。また、令和元年度以降も院生アンケートを実施する予定である。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名

東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福 川 伸 次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安 齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため (元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月)		
研究科長	(オオサコ マサフミ) 大 迫 正 文 (平成30年4月)		
専 攻 長	(タカハシ ヨシユキ) 高 橋 良 至 (平成30年4月)	(ウチダ ヨシオ) 内 田 祥 士 (平成31年4月)	高橋氏がライフデザイン学部 の学科長に就任したため (元) 変更年月日：平成31年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を
()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学研究所 人間環境デザイン専攻 (博士後期課程) 博士(人間環境デザイン学)	家政関係	3年	4人	— 年次 — 人	12人	基礎となる学部等 ライフデザイン学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							4人	—人	4人	—人	0.00倍	— 倍	
							(—)	(—)	(—)	(—)			
							[—]	[—]	[—]	[—]			
志願者数							(—)	(—)	(—)	(—)			
							[—]	[—]	[—]	[—]			
受験者数							(—)	(—)	(—)	(—)			
							[—]	[—]	[—]	[—]			
合格者数							(—)	(—)	(—)	(—)			
							[—]	[—]	[—]	[—]			
B 入学者数							(—)	(—)	(—)	(—)			
							[—]	[—]	[—]	[—]			
入学定員超過率 B/A							0.00	0.00	0.00	0.00			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、() 書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次							— [—]	— [—]	— [—]	— [—]	
2 年次									— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次											
4 年次											
計	— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		— [—] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留學生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	
			平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 博士後期課程>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義・演習科目	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	1前	2			4	2				兼2
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	1後	2			4	2				兼2
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	2前	2			4	2				兼2
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	2後	2			4	2				兼2
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	3前	2			4	2				兼2
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	3後	2			4	2				兼2
	小計(6科目)	-	12	0	0	4	2	0	0	0	兼2
研究指導科目	人間環境デザイン学研究指導	1(2)・2(2)・3(2)	-			3	1				兼1
	小計(1科目)	-	0	0	0	3	1	0	0	0	兼1
合計(7科目)			-	12	0	0	4	2	0	0	兼2
卒業要件及び履修方法											
(1)本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2)主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3)主指導教授の「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」を履修すること。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義・演習科目	人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ(未開講)	1前	2				8	1			
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ(未開講)	1後	2				8	1			
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	2前	2								
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	2後	2								
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	3前	2								
	人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	3後	2								
	小計(6科目)	-	12	0	0		8	1	0	0	兼0
研究指導科目	人間環境デザイン学研究指導(未開講)	1(2)・2(2)・3(2)	-				5				
	小計(1科目)	-	0	0	0		5	0	0	0	兼0
合計(7科目)			-	12	0	0	8	1	0	0	兼0
卒業要件及び履修方法											
(1)本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2)主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3)主指導教授の「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」を履修すること。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講義・ 演習科目	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅰ(未開講)	1前	2			7					
	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅱ(未開講)	1後	2			7					
	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅲ	2前	2								
	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅳ	2後	2								
	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅴ	3前	2								
	人間環境デザイン学 特殊研究Ⅵ	3後	2								
	小計(6科目)	-	12	0	0	7	0	0	0	0	兼0
研究 目 指 導 科 目	人間環境デザイン学 研究指導(未開講)	1後・2前・3後	1			4					
	小計(1科目)	-	0	0	0	4	0	0	0	0	兼0
合計(7科目)		-	12	0	0	7	0	0	0	0	兼0
卒業要件及び履修方法											
(1)本大学院に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 (2)主指導教授の「研究指導」を毎セメスタ履修すること。 (3)主指導教授の「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」を履修すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」について、担当教員1名の平成30年4月1日付昇格および同教員の平成30年度長期海外研究のため、専任教員等の配置を「教授4・准教授2・兼2」から「教授7」に変更。
 ・「人間環境デザイン学研究指導」について、担当教員1名の平成30年4月1日付昇格および同教員の平成30年度長期海外研究のため、専任教員等の配置を「教授3・准教授1・兼1」から「教授4」に変更。

【令和元年度】

・「人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」について、指導体制充実のため、専任教員等の配置を「教授4・准教授2・兼2」から「教授8・准教授1」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
7 科目	0 科目	0 科目	7 科目	7 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	0 科目 [増減なし]	7 科目 [増減なし]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{7} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～2041/3/31 H41.4.18～H41.4.17 借用期間の修正 (30)			
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡				
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡				
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	赤羽台キャンパス土地登記手続等 による修正 (30)			
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得による変更 (元)			
(2) 校 舎	専 用	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡	0㎡	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)			
	共 用	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	330室 327室 328室	153室 157室	400室 403室 401室	35室 33室 12人 14人 (補助職員 27人)	5室 (補助職員 0人)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)		
	演 習 室								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		平成31年4月専任教員1名博士 後期課程担当に追加のため (元)			
	ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 (博士後期課程)			9 8 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能な ため、大学全体の数	
	ライフデザイン学研究 科人間環境デザイン 専攻(博士後期 課程)	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,561,606 [347,373]) (4,551,493 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,593]) (26,156 [26,519])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,833)	(-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャー ナル・視聴覚資料：受入数変 動による変更(30)	
	計	1,581,832 [349,515] 4,592,705 [352,212] 4,610,535 [352,557] (1,561,606 [347,373]) (4,551,493 [350,923]) (4,566,737 [350,402])	16,875 [5,492] 17,278 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,278 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,698 [18,593] 26,156 [26,519] (19,599 [19,455]) (18,698 [18,593]) (26,156 [26,519])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,833)	(-) (-) (-) (-) (-)	(-) (-) (-) (-) (-)	図書・学術雑誌・電子ジャー ナル・視聴覚資料：受入数変 動による変更(元)	
(6) 図 書 館	面 積	17,498.63㎡ 17,211.03㎡	2,758 2,763 2,746	2,081,075 2,122,706 2,121,775				面積：改修工事等による変更 (30) / 閱 覧座席数・収納可能冊数：白山キャンパス 及び川越キャンパスの書架及び閲覧席の増減に よる変更(30) 白山キャンパス及び川越キャンパスの書架並びに 板倉キャンパス閲覧席の増減による変更(元)	
	閱 覧 座 席 数								
(7) 体 育 館	面 積	21,067.33㎡ 21,097.14㎡ 21,240.09㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
	野 球 場 1 面、サ ッ カ ー 場 2 面		テ ニ ス コ ー ト 13 面 等			新川越体育館の計画時面積と竣工面積の 差等による変更 (30) 運動部用倉庫取壊しによる変更 (元)			
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当たり研究費等：研究科単位では 算出不能なため、学部との合計	
	教員1人当たり研究費等	532千円	532千円	図書購入費	685千円	641千円 845千円	959千円	共同研究費等：大学全体	
	共 同 研 究 費 等	80,000千円	80,000千円	設備購入費	3,549千円	983千円 4,223千円	4,969千円	図書購入費：図書購入費には電子ジャー ナル・データベースの整備費（運用コスト含む。） を含む。	
	学生1人当たり 納付金	第1年次 810千円	第2年次 540千円	第3年次 —	第4年次 —	第5年次 —	第6年次 —	設備購入費：申請研究科全体	
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。							計画見直しに伴う変更(30)

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、
複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の
項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、
その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」
を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コ ミュニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会 学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士(社会心理 学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修士(社会福 祉学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修士(マーケ ティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止

理工学研究科									
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域 学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光 学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域 学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光 学)	—	—	平成17 年度	同上
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャル ワーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士 (保育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康ス ポーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境 デザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナイン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオナイン融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	

経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士（経営学）又は博士（マーケティング）	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士（経営学）	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士（経営学）または博士（会計・ファイナンス）	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更（△2）
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士（マーケティング）	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.22	—	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士（理工学）	0.33	—	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	—	平成26年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士（工学）	—	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.66	—	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士（国際地域学）	0.60	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士（国際観光学）	0.50	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士（国際地域学）	—	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士（国際観光学）	—	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士（生命科学）	0.50	—	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（ソーシャルワーク）	0.90	—	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士（社会福祉学）又は博士（健康スポーツ学）	0.80	—	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士（人間環境デザイン学）	0.00	—	平成30年度	同上	

福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオナサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナサイエンス融合)	0.50	—	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体 (大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止 平成25年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	

法学部 第1部											
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.07	—	昭和31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.08	—	昭和40 年度	同上		
社会学部 第1部											
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上		
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	—	平成12 年度	同上		
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.07	—	平成12 年度	同上		
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4 年度	同上		
理工学部											
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36 年度	埼玉県川越市鯨井2100		
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21 年度	同上		
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36 年度	同上		
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36 年度	同上		
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37 年度	同上		
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37 年度	同上		
国際地域学部											
国際地域学科						—		平成9 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止	
国際学部											
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	300	学士(グローバル・ イノベーション学)	0.99	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
国際地域学科						1.02		平成29 年度	同上		
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29 年度	同上		
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29 年度	同上		
国際観光学部											
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号		
生命科学部											
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号		
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21 年度	同上		
ライフデザイン学部											
生活支援学科						1.05		平成17 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号		
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21 年度	同上		
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21 年度	同上		
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17 年度	同上		
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18 年度	同上		
総合情報学部											
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21 年度	埼玉県川越市鯨井2100		

食環境科学部														
食環境科学科						1.04		平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号					
フードサイエンス専攻					4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25年度	同上	平成25年度より学生募集停止 平成29年度入学定員変更（△30）
スポーツ・食品機能専攻					4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25年度	同上	
健康栄養学科					4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25年度	同上	
情報連携学部														
情報連携学科					4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成25年度より学生募集停止 平成29年度入学定員変更（△30）
文学部 第2部														
東洋思想文化学科					4	30		120	学士 (文学)	1.12	—	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学科					4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31年度	同上	
日本文学文化学科					4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27年度	同上	
教育学科					4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39年度	同上	
経済学部 第2部														
経済学科					4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学部 第2部														
経営学科					4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
法学部 第2部														
法律学科					4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会学部 第2部														
社会学科					4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成31年度入学定員変更（5） 平成31年度3年次編入学定員廃止（△10）
社会福祉学科					4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13年度	同上	
大学全体（学部）					—	7306	—	28060	—	—	—	—	—	
通信教育部														
文学部										—				
日本文学文化学科					4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39年度		平成30年度より学生募集停止
法学部														
法律学科					4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41年度		平成30年度より学生募集停止
大学全体（通信教育部）					—	—	—	—	—	—	—	—	—	

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 博士後期課程＞

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専攻長)	高橋 良至 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	高橋 儀平 (68) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ
専	教授	水村（青木）容子 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	奥村 和正 (62) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専攻長)	高橋 良至 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	高橋 儀平 (69) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
専	教授	水村（青木）容子 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	奥村 和正 (63) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専攻長)	高橋 良至 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	
専	教授	水村（青木）容子 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（学術）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	奥村 和正 (64) ＜平成30年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 祥士 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	櫻井 義夫 (60) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ
専	教授	繁成 剛 (62) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ
専	准教授	菅原 麻衣子 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 祥士 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	櫻井 義夫 (61) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
専	教授	繁成 剛 (63) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
専	教授	菅原 麻衣子 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専攻長)	内田 祥士 (64) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	櫻井 義夫 (62) ＜平成30年4月＞ 修士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
専	教授	繁成 剛 (64) ＜平成30年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
専	教授	菅原 麻衣子 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学研究指導
専	教授	池田 千登勢 (55) ＜平成31年4月＞ MBA（英国）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	仲 綾子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ
兼任	教授	奥村 和正 (62) ＜平成32年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
兼任	教授	繁成 剛 (62) ＜平成32年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	仲 綾子 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ
兼任	教授	奥村 和正 (63) ＜平成32年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
兼任	教授	繁成 剛 (63) ＜平成32年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	仲 綾子 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ
兼任	教授	奥村 和正 (64) ＜平成32年4月＞ 学士（工学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ 人間環境デザイン学研究指導
兼任	教授	繁成 剛 (64) ＜平成32年4月＞ 博士（医療情報学）
		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ 人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・菅原麻衣子教授が平成30年度長期海外研究のため、担当科目を既存専任教員が代行。

【令和元年度】

・平成31年4月より池田千登勢教授が授業担当教員として追加。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
4	2	0	0	6	8	1	0	0	9
(7)	(1)	(0)	(0)	(8)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
4	0	2			5	0	4		
(5)	(0)	(3)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
8	1	0	0	9	6	1	0	0	7
[4]	[Δ1]	[0]	[0]	[3]	[2]	[0]	[0]	[0]	[2]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
5	0	4			4	0	3		
[1]	[0]	[2]			[0]	[0]	[1]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{6} = \boxed{150} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合 計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合 計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{6} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	高橋 儀平	必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅰ	①	平成31年3月末日付で70歳で定年退職（元）						
			必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅱ	①							
			必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅲ	①							
			必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅳ	①							
			必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅴ	①							
			必修		人間環境デザイン学特殊研究Ⅵ	①							
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
1	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【(3)-⑤(高橋)】 退職教員のすべての担当科目は既存専任教員で担当するため、本専攻の教育研究の遂行には支障がないと判断している。学生への周知については、各科目後任者が作成したシラバスを平成31年3月から公開した。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年3月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<ライフデザイン学研究科人間環境デザイン専攻 博士後期課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・本研究科への入学試験は8月と2月に実施する。	・入学者増のため、令和元年度実施入学試験より8月、11月、2月の3回実施する。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチング アシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

● 研究倫理について学生を指導する上での留意点（ライフデザイン学研究科）

・講演会形式（外部講師招聘）

平成31年3月14日 参加者：32名

○=東洋大学全学実施・●=各学部/研究科での実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめて「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進度」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。(URL: <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>)

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上目指している。

その他、ライフデザイン学研究科独自の取組みとして平成30年度に院生アンケートを実施し、集計結果を研究科委員会で共有した。集計結果に基づき、教育研究体制の改善策を各専攻で検討の上、集計結果および改善策等を学生へ公開する予定である。また、令和元年度以降も院生アンケートを実施する予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

[2. 校舎等建物の面積を減じようとする場合及び建築計画が遅延する場合の様式例]

建築等設置計画変更書

平成30年度開設

東洋大学大学院 ライフデザイン学研究科		
建 物 区 分	認可時の計画	変 更 計 画
(7) 体育館 運動部用倉庫	29.81㎡	0.00㎡
	2018/11 川越キャンパス運動部用倉庫の老朽化による取壊しに伴う変更のため、授業には支障無し。	

(注) 1 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延)がある場合には, 上記様式により提出してください。

ただし, 面積の増加や建築計画と登記上の面積の誤差並びに建築計画が早まる場合には, この書類の提出は不要です。

2 面積が減少する場合及び校舎建て替えの場合には変更に係る図面及び新旧対照表を, 建築計画の遅延の場合には工程表をそれぞれ添付してください。

3 校地の計画の変更が生じる場合には, 「建築等設置計画変更書」を「校地面積変更書」に, 「建物区分」欄を「団地の名称」に変更して提出してください。

東洋大学高等教育推進センター規程

平成 20 年 12 月 1 日

施行

平成 27 年 4 月 20 日

改正

平成 29 年 4 月 1 日

改正

平成 30 年 4 月 1 日

改正

(設置)

第 1 条 東洋大学（以下「本学」という。）は、東洋大学学則第 3 条の 3 及び東洋大学大学院学則第 1 条の 3 に基づき、「東洋大学高等教育推進センター」（以下「高等教育推進センター」という。）を設置する。

(目的)

第 2 条 高等教育推進センターは、本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援することを目的とする。

(事業)

第 3 条 高等教育推進センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

(センター長)

第 4 条 高等教育推進センターに、センター長を置く。

2 センター長は、高等教育推進センターの業務を統括し、高等教育推進センターを代表する。

3 センター長は、学長が指名する副学長とし、理事長が任命する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副学長の在任期間内とする。

(副センター長)

第 5 条 高等教育推進センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき、又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(センター員)

第6条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、センター員を置くことができる。

2 センター員は、学内外の専門的な知識を有する者とし、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

(高等教育推進委員会)

第7条 高等教育推進センターに、高等教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

2 推進委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1) センター長、副センター長

(2) 各学部から推薦された専任教員 各1名

(3) 各研究科から推薦された専任教員 各1名

(4) 教務部長

(5) 教務部事務部長

(6) 高等教育推進支援室長

(7) センター員

(8) 学長が推薦する本学専任教職員 若干名

3 前項第2号、第3号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

第8条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 第3条に掲げる事業に関する重要事項

(2) 学長から諮問された事項

(3) その他高等教育推進センターに関する重要事項

2 推進委員会はセンター長が招集し、その議長となる。

3 推進委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。

4 推進委員会の議決に当たっては、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、センター長が決する。

5 推進委員会は、必要に応じ、委員以外の者（学外者を含む。）を推進委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(部会)

第9条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、部会を置くことができる。

2 部会の部会長は、推進委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。

3 部会の構成員は、推進委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。

4 センター長が部会長と協議し、必要に応じ、推進委員以外の者を部会に加えることができる。

5 その他部会に必要な事項は、別に定める。

(学生FDチーム)

第10条 センター長のもとに、学生FDチームを置くことができる。

2 学生FDチームは、センター長のもとで、FD活動を行う。

3 学生FDチームは、本学の学部又は研究科に在籍する学生で、FD活動への参加を希望する者のうちから、センター長が任命する。

(細則)

第11条 この規程の実施について必要な事項は、推進委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事務の所管)

第12条 高等教育推進センターの事務は、高等教育推進支援室の所管とする。

(改正)

第13条 この規程の改正は、学長が推進委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成20年12月1日から施行する。

2 この規程施行の際、改正後の第6条第2項第2号、第3号、第4号及び第6号の委員は、現に「東洋大学FD委員会規程」により選出された委員をもって充てる。ただし、任期は、平成21年3月31日までとする。

3 東洋大学FD委員会規程(平成19年規程第8号)は、廃止する。

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

（別紙）設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、生活者のウェルビーイング実現に向け、社会福祉学、保育学、応用健康科学、スポーツ科学、人間環境デザイン学など様々な領域の専門家と協働し、広い視野から現代社会における諸問題の解決にあたることのできる高度専門職業人や研究者、教育者を育成することを目的としている。

上記の研究科設置の趣旨と目的から、福祉や保育、健康スポーツ、ものづくりの実践現場で勤務する社会人および研究者の獲得のため、平成30年度の学生募集にあたっては、年2回の進学相談会をはじめ、平成29年度に引き続き研究科リーフレットを作成し、各分野に関連のある大学や介護施設、社会福祉協議会等に郵送した。また、専攻所属教員が中心となり、関連学会や講習会等の聴講者・受講者に対して本研究科の紹介を行ったほか、基盤学部であるライフデザイン学部の保育実習先・介護実習先の各種施設の職員や、専攻所属教員と繋がりのある他大学教員、自治体職員等に対し、社会人の大学院での学びの必要性をアピールした。

その他、ライフデザイン学部からの内部進学者増進のため、大学院先行履修制度による大学院科目履修と大学院進学を選択肢について各学科ガイダンスでアナウンスしたほか、3,4年生ゼミでの大学院進学与学位取得の意義についての説明、卒業生の集まりやホームカミングデーなどでの個別リクルートなど、教員による学部生への学生募集活動を行った。

結果として、平成30年4月入学生が全専攻・課程を合わせて15名であったことに対し、平成31年4月入学においては、受験生が博士前期・修士課程で24名（前年度比+6名）、博士後期課程で3名（前年度比▲2名）、入学生が博士前期・修士課程で14名（前年度比+4名）、博士後期課程で3名（前年度比▲2名）の合計17名が入学し、前年度から2名の増となった。とはいえ、本研究科博士前期・修士課程の平均入学定員超過率は0.47、博士後期課程は0.33と依然高いとはいえないため、令和元年度においては、引き続き上述のような各専攻所属教員を中心とした学生募集活動およびリーフレット送付を継続していくほか、進学相談会を5月・7月・10月のそれぞれ日曜午後・月曜夜・土曜午後の時間帯に実施する。これは、相談会自体の回数を増やすとともに社会人がより参加しやすい日程とし、かつ出願期間に十分余裕がある時期に開催するよう工夫したものである。また、入試を平成30年度までの8月・2月の計2回から、8月・11月・2月の計3回実施とすることで受験機会自体を増やし、受験生および入学生の確保を図る。その他、平成30年4月入学生、平成31年4月入学生のうちそれぞれ2名が大学院先行履修制度利用者の博士前期・修士課程進学者であり、同制度は内部進学者確保のルートとして確立しつつある。令和元年5月1日現在でも、既に3名の大学院先行履修制度申請者があったため、引き続き安定的に内部進学者を確保すべく、学部ゼミ単位でも同制度の利用と大学院進学について広報を続けていく。

なお、研究科全体でみると前述のとおり受験者数・入学者数ともに増となったが、専攻・課程別にみると、人間環境デザイン専攻博士後期課程においては、平成30年4月入学および平成31年4月入学の両方において受験者数・入学者数ともに0名であった。学内のみならず、他大学に向けた広報不足に因るところが大きいことから、関係各所に勤務する社会人や博士前期課程修了予定者への個別リクルートなど、より積極的な学生募集活動を展開し、受験生ならびに入学生の確保に努めていく。

教育課程の編成については、若干の担当者変更が発生したものの、平成30年度、令和元年度ともに、設置計画どおりの教育課程編成に沿って全科目を開講できている。時間割についても、社会人学生をは

じめ様々なバックグラウンドの学生に配慮して編成しているため、平成30年度に実施した院生アンケートでも概ね好評であった。在校生の単位修得状況からも、概ね計画通りの教育成果を挙げていると言える。

教員組織については、本研究科の基礎となるライフデザイン学部人間環境デザイン学科に平成31年4月1日付で新たに着任する専任教員のうち准教授2名を、内部審査を経て、本研究科人間環境デザイン専攻博士前期課程研究指導担当教員として追加した。このことにより、講義科目の内容や研究指導の分野がより一層充実するとともに、同専攻専任教員の年齢構成のバランスが向上した。

教育方法、履修指導、および研究指導については、平成30年度実績として、各専攻の指導計画に合わせて中間報告会や合同指導会が開催されたほか、博士前期・修士課程、博士後期課程にかかわらず、複数の学生が研究の一環として学会発表に参加した。令和元年5月1日時点の実績としては、今年度新入生に対して4月に専攻別ガイダンスを実施し、新入生の指導体制と今年度春学期の履修科目が確定した。特に今年度は博士前期・修士課程で本研究科初の修了生が出る見込みであるため、引き続き各専攻の研究指導計画に基づき、各指導教員による個別指導、および専攻全体による組織的な指導を継続していく。

以上のことから、現時点では、本研究科の設置計画に沿った教育研究活動を遂行できていると判断できる。